

PMI 日本支部
アニュアルレポート
2019



一般社団法人 PMI 日本支部

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL:03-5847-7301 FAX:03-3664-9833

<https://www.pmi-japan.org/>

info@pmi-japan.org

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「PMBOK」、「OPM3」、「PMP」、「CAPM」、「PgMP」、「PfMP」、「PMI-RMP」、「PMI-SP」、「PMI-ACP」、「PMI-PBA」、「PROJECT MANAGEMENT JOURNAL」、「PM NETWORK」、「PMI TODAY」、「PULSE OF THE PROFESSION」は、Project Management Institute, Inc., (以下PMI, Inc.,)の登録商標です。



PMIとは

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのがPMI (Project Management Institute) で、2019年には創立50周年を迎えました。PMIがまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系「PMBOK® (Project Management Body of Knowledge) ガイド」は、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年、その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2017年の9月に発行された第6版となっています。世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践に活用されています。

PMI日本支部とは

1998年、PMIの日本国内唯一の支部として「PMI東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動し、2018年に20周年を迎えました。PMI日本支部の活動は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々ご自身のPMスキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメントからビジネス・アナリシスまで、デジタル・ディストラクションに取り組む手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。

CONTENTS

2	PMIとは
2	日本支部とは
4	会長メッセージ
5	PMI日本支部の組織
6	2019年のトピックス
6	PMI 50周年
7	日本フォーラム2019
9	Japan Festa 2019
11	関西10周年記念セミナー
12	非支部会員向けオリエンテーション
13	海外動向フィードバックセミナー
14	中期3か年計画
14	2017-2019中期計画総括
16	2020-2022中期計画の策定
18	PMI標準
20	プロジェクトマネジメントの動向
20	50周年を迎えたPMI®の新たな取り組み
22	海外コンGRES
24	会員向けサービス
24	個人会員制度
26	新入会オリエンテーション
26	法人スポンサー・プログラム
28	アカデミック・プログラム
29	行政プログラム
30	部会活動
30	首都圏中心の支部会員による活動
35	関西ブランチ所属支部会員による活動
36	中部ブランチ所属支部会員による活動
37	法人スポンサー社員による活動
38	部会横断活動
38	部会リーダー交流会
39	アジャイル関連部会連携
39	SDGs スタートアップ研究分科会
40	各種セミナー
40	外部講師招請によるもの
43	理事・部会メンバーが講師を務めるもの
45	情報発信
46	販売図書
47	決算報告
48	2019年度 理事・監事名簿
49	スポンサー一覧

日頃、PMI日本支部(以下、日本支部)の活動へのご参加、ご支援をいただき誠にありがとうございます。日本を取り囲む政治・経済の環境は、益々厳しさを増しております。また、異常気象は年中行事ようになっております。

さて、2019年度の支部会員数は5,000人を超える予想外の増加となりました。これはひとえに日本支部会員の皆さまの活発で献身的な活動の賜物と思っております。

PMI本部は2019年に創立50周年を迎え、現在、戦略の見直しの中にあり、さまざまな情報が公開されております。50周年の北米 Conference では、Refreshed Brandとして新しいロゴの発表、会社や組織ではなくProjectを活動単位として経済活動が営まれるThe Project Economyという新しい経済像の提言、Strategic Plansの発表、Disciplined Agile (DA)の吸収を代表とするAgile Managementへの取り組みなどが発表されました。その背景にあるのは、急速に進展するDigital Disruptionと表現されるイノベーションの中で、Project Managementの新たな立ち位置の確立であると考えます。

日本支部の置かれている状況も、環境の違いこそあれ、同様に加速度的に変化しています。未知の変化に直面し、その状況にいかに対応し先取りをするかが問われているものと思います。

統一テーマを設定した7月の日本フォーラムや11月のJapan Festaもおかげさまで成功を収めることができました。



2019年度 PMI日本支部 会長 奥澤 薫

また、恒例となった日本支部のリーダーシップミーティングでは、日本支部の状況・課題を部会リーダーの皆さまに共有いただくことができました。

PMI東アジアの中で、中国、香港、台湾の各支部や、PMI Global Operation Centerとの交流や協業も、引き続き実施させていただきました。会員や法人スポンサーの皆さまには、これらの友好関係を、日本支部が提供できるグローバルなネットワークとして、是非ご活用いただきたいと考えております。

2019年は新しい3ヶ年中期計画の最終年にあたり、計画の成果検証を実施し、次の2020年から2022年にわたる新たな中期計画を策定いたしました。この中期計画を着実に実現し、皆さまに価値のあるサービスをご提供させていただき、理事、委員会、事務局が一体となって邁進していきます。

2019年は関西ブランチ創設10周年にあたる記念事業を実施し、2020年は中部ブランチ創設5周年に当たります。関西、中部各ブランチの活動を通して皆さまへのより身近な地域向けサービスの拡大や、新標準の展開、公共機関や教育機関への貢献、社会的プロジェクトへの取り組みを実施しております。部会を通じて活動成果を周知・展開するなど、会員の皆さまの活動がより充実するよう、引き続き努力していきたいと思っております。また、ホームページやイベントの会場など、できる限り多くの機会に日本支部の活動を皆さまに知っていただけるよう、情報発信をまいります。

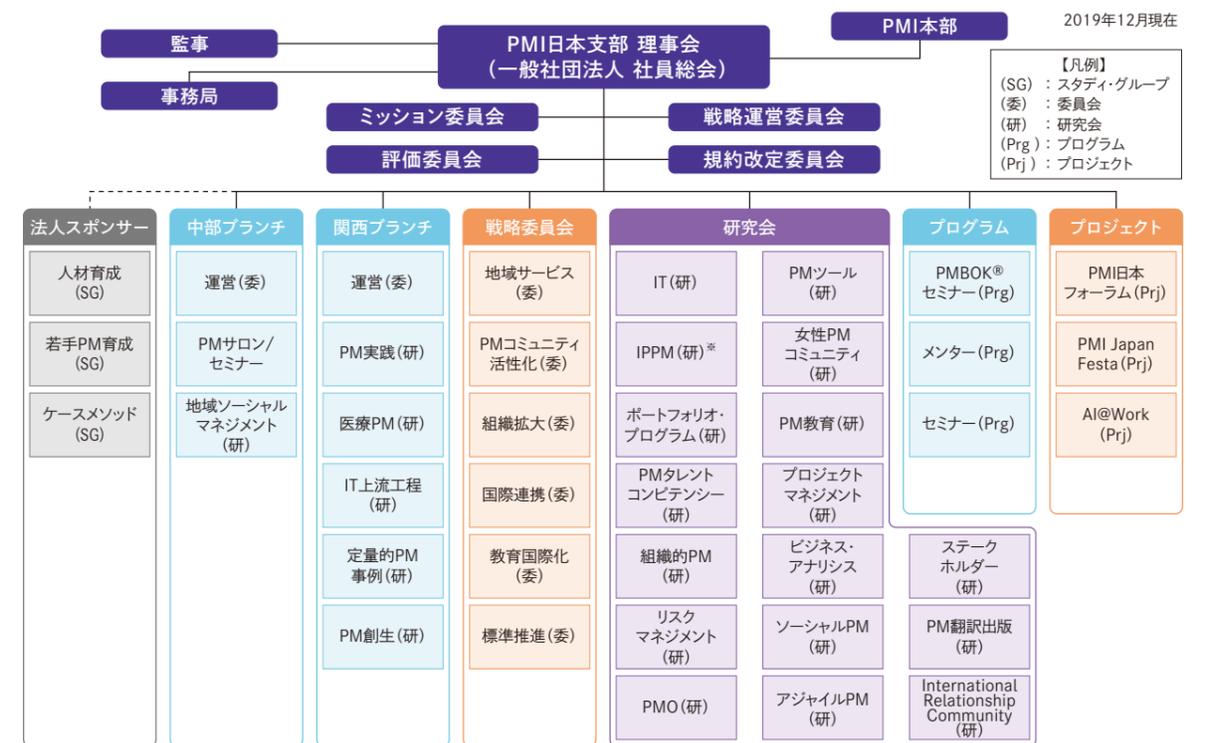
また、日本フォーラム、Japan Festaでは、インターネットを介して、講演をLiveで聴講いただきました。空間的な制約に縛られない、できる限り地域均等なサービスをご提供することを目指してまいります。

法人スポンサーの皆さまには、各種セミナーなどの特典や、自主的な勉強会(Study Group)活動などを支援させていただくとともに、日本支部の持つグローバルなネットワークも是非ご活用いただければと思っております。研究会活動は、会員皆さまにとって研鑽の場、情報交換の場、経験豊富なPM同士の交流の場、あるいは日頃の研究成果の発表や疑問の解消の場として、役立つものと確信しております。

毎回申し上げていることではありますが、当レポートをご覧いただければ、日本支部の広範にわたる活動が、会員皆さまの自主的な活動に支えられ、展開されていることを実感していただけるものと思います。

日本支部は、会員皆さま個人としての参加、貢献によって支えられている団体です。引き続き、会員の皆さまには、積極的に活動にご参加いただきますよう、また、まだ会員登録いただいていない皆さまには、これを機会にぜひ入会をご検討いただきたく、よろしくお願いたします。

組織構成



ミッション委員会

ミッション委員会の主な役割は、中期計画を策定し理事会に上程することおよび、各種の支部活動が中期計画に即しているかをモニタリングし、必要に応じて是正処置を理事会に提案することです。

2019年は、日本支部2017-19中期計画の3年目に当たるため、各戦略委員会にヒアリングや中期計画の進捗報告を求め、3か年の総括を行い、その結果をまとめました。並行して2020-2022年中期計画策定のためワーキンググループを設置して、PMIの戦略変更や先の計画の総括を反映した計画をまとめ理事会に報告しました。

戦略運営委員会

戦略運営委員会は、日本支部の施策の円滑な遂行のために、支部年次計画の立案調整、執行支援を行っています。具体的には、理事会付議案件を事前に確認し論点を明確化するなど理事会運営の円滑化を図るとともに、定常的な案件に関する意思決定の迅速化を進めています。また、委員会、事務局、部会(研究会)、プログラムおよびプロジェクトの施策の具体化や執行状況を把握し、必要な調整も行っています。

2019年度は、支部年間計画と目標をPMI本部と共有して関係を強化し、本部からの支援の拡大に向けた交渉を始めました。また、機動的な支部運営が可能になるように、財務担当理事と協力して予算執行状況の把握に努めました。

評価委員会

評価委員会は、事務局長を含む事務局職員の給与・賞与について、事務局長の提案を受けて、同様な非営利団体の状況、日本支部の財務状況、職員間のバランス・貢献状況などを勘案して理事会に提案します。また、会員・部会表彰者の選考を行い、理事会に提案します。2019年度は、事務局職員の賞与、一部職員の昇給を答申しました。

規約改定委員会

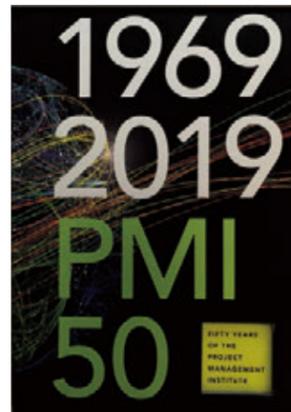
規約改定委員会は、PMI日本支部の諸規定の起案・改定・所管案策定を行い理事会に承認を求める機関です。また、部会・委員会が起案・改定した諸規定の整合性を担保すべく、部会・委員会と協議後に理事会に付議し承認を得ます。2019年度は、主に理事選挙について支部定款、支部規約を策定しました。

監事

監事は、支部会員の負託を受けた独立機関として理事・理事会および事務局の職務執行を監査することにより、さまざまなステークホルダーの利害に配慮しつつ日本支部の健全で持続的な事業と目的達成を担保します。2019年は、定期的な業務監査・会計監査を実施しました。

PMI 創立50周年

1940年代に近代プロジェクトの走りといわれるマンハッタン計画が進められ、技術的には大成功と評価されました。1960年代に入るとアポロ計画が始まり1969年には人類の第一歩が月面に記されたのです。同じ時期、日本では1964年の東京オリンピックに合わせて東海道新幹線が建設され、初めてコンピューターのオンライン・システムによる情報管理が行われ、1970年の大阪万博へと発展して行きました。この頃のプロジェクトではQCD(品質・コスト・納期)を重点項目とした管理が行われており、その成功体験からQCDは永遠のトライアングルとも呼ばれましたが、現場では様々な課題が持ち上がっていたのです。



出典：「1969 2019 PMI50」表紙



出典：「1969 2019 PMI50」p68

PMIの50年の歴史はプロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)の歴史とも言えます。

5人の創立者は、1969年当初、プロジェクト計画とスケジューリング実務についての情報共有を始めましたが、それは正に「プロジェクトマネジメント」だったのです。彼らは多くのセミナーや議論を進め

ながら仲間を増やし、1980年代には「倫理・標準・認証」をテーマとしたマネジメント・グループを結成し、1987年に最初のPMBOK®ガイドを発刊しました。それは6つの知識エリア(スコープ・コスト・タイム・品質・人的資源・コミュニケーション)で構成されており、これでQCD管理から全体最適管理への道筋をつけたのです。

1996年になって「統合・リスク・調達」の3つの知識エリアが追加され9つとなり「PMBOK®ガイド」として大幅改訂されました。統合マネジメントが定義されたことにより、プロジェクト・マネジャーとしての役割が一層明確になったのです。その後2012年度版で「ステークホルダー・マネジメント」が追加され、今日の10の知識エリアとなりました。

PMIは更に、OPM、PMCDF、ポートフォリオマネジメント標準、プログラムマネジメント標準、PMIビジネスアナリシス・ガイドなどの標準や実務ガイド等も発刊し、これらの領域でリーダーシップを発揮しています。



出典：「1969 2019 PMI50」p9

PMI日本フォーラム2019

日程： 7月20日(土)、21日(日)
 場所： 学術総合センター(一橋記念講堂)
 テーマ： 「新しい潮流へのチャレンジー境界を越えてー」
 セッション数： 72セッションを実施(基調講演のみ記載)
 基調講演： President & CEO, PMI Prashara Sunil氏
 PMI Board of Directors Sura Tejas氏
 広島修道大学 教授 佐藤達男氏



日本フォーラムは、日本支部会員や一般の方々をはじめ、法人スポンサー企業社員、企業エグゼクティブの方々に、プロジェクトマネジメントの事例や最新動向を紹介するとともに日本支部の活動を知っていただく日本支部における年間最大の啓発イベントです。



2019年は、「新しい潮流へのチャレンジー境界を越えてー」をテーマに、7月20日(土)、21日(日)の両日、東京都千代田区学術総合センターにおいて開催しました。受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みがあり、会場、同時中継をあわせて1,600名を超える方々に参加いただき盛況裡に閉幕しました。



冒頭の日本支部会長 奥澤薫の挨拶に続き、基調講演として、PMI創立50周年にあたりPMIプレジデント兼CEO Prashara Sunil、PMI理事 Sura Tejasの両氏から「プロジェクトマネジメントの価値」を、続いて広島修道大学 佐藤達男教授から「近代マネジメントの

歴史におけるプロジェクトマネジメントの過去から現在、そして未来」の講演がありました。その後、10人の国内外の幅広い分野の識者からそれぞれの立場で2日間にわたり、示唆に富む講演をいただきました。



基調・招待講演の登壇者とテーマ

7月14日(土)	
[1]	「プロジェクトマネジメントの価値」- PMI's 2019 Pulse of the Profession® Prashara Sunil President & Chief Executive Officer, PMI Sura Tejas PMI Board of Directors
[2]	近代マネジメントの歴史におけるプロジェクトマネジメントの過去から現在、そして未来 佐藤達男氏 広島修道大学経済科学部 教授(兼)キャリアセンター長
[3]	プロジェクトポートフォリオの協働計画への「プロジェクト管理モデルCANVAS」活用のすすめ Marcelo Sechieri氏 PMO Leader at Banco Toyota do Brasil
[4]	これからの日本に必要な言葉の教育一言語技術 三森ゆりか氏 有限会社つくば言語技術教育研究所、代表取締役所長
[5]	世界初に拘った製品開発を掲げる中小企業の生き残り戦略 岡田勝利氏 廣瀬製紙株式会社 代表取締役会長
[6]	DX "2025年の崖" 克服に向けたSOMPOのチャレンジ 浦川伸一氏 損保ジャパン日本興亜株式会社 取締役常務執行役員CIO
7月15日(日)	
[7]	ビジネスポートフォリオ変革へのチャレンジ-Sierからビジネスパートナーへ 栗島 聡様 NTTコムウェア株式会社 代表取締役社長
[8]	ユーザ体験デザインとアジャイルによる変革の実現 田島佳奈氏 株式会社セールスフォース・ドットコム 日本Ignite Innovation Program 責任者
[9]	SDGs達成のための転換: 私たちにできることは何か? 佐藤法仁氏 国立大学法人岡山大学 副理事・URA / 内閣府科学技術政策フェロー
[10]	「スマートシティかまつ」の実現を目指して 広瀬 一朗氏 内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室 参事官補佐
[11]	IT開発プロジェクト成功のためのPM力強化 菊島靖弘氏 南山大学理工学部 客員教授
[12]	ITを活用した社会課題へのチャレンジ 油谷実紀氏 TIS株式会社 エグゼクティブフェロー

大講堂での基調・招待講演については、一昨年から継続して同時中継を採用し230余名の方々にリアルタイムに受講いただきました。

グローバルトラックでは、インド、ブルガリア、サンフランシスコのほか、2部会から英語で講演をいただき各々の立場から海外の動向、プロジェクトマネジメントなどに関するいろいろな興味深い話を聴くことができました。

アカデミックトラックでは、両日にわたって2つのオープンセッションを含む計9つのセッションを開催しPM教育、PM視点からの大学・企業の人材育成、産学連携など各教育機関が抱える課題について意見交換、討論が活発に行われました。



分科会

各テーマ別トラックでは、日本支部各部会、法人スポンサー・スタディ・グループ(SG)から日頃の研究成果の発表の場として、PMIがグローバルに推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスクマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系、そしてソーシャル、アジャイルなどに関連した講演が27部会・SGから40のセッション、およびスポンサー企業からの6セッションの講演で実



ボランティア一同



グローバルトラック

施され中身の濃い内容となりました。

また、15社のスポンサー企業のご支援もあり、協賛はじめ多様な展示、ランチセッション、講演などに参加いただきました。

2019年はPMI本部創立50周年。これを記念して、特製Tシャツ、トートバックを会場への参加者全員にお配りしました。また、初日の夜に開催した交流会では、ボランティアの一員である豊田光海氏など草月流の師範による豪華な生け花が会を大いに盛り上げてくれました。



グッズ交換



交流会

2020年は7月4日(土)、5日(日)の二日間を予定しています。

Japan Festa 2019

日時: 2019年11月23日(土)、24日(日)
場所: 慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホール
テーマ: 『新時代に挑む
～ 10人の業界トップランナーに聞く ～』



2019年11月23日(土)、24日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールにて、PMI Japan Festa 2019を開催しました。今回で3回目となる全国向け同時中継のほか、講師ご本人によるフラワーアレンジメントの装飾も加わり華やかな雰囲気の中、オンライン中継受講者を含め今年も延べ700人を超える方々の参加を得て成功裏に終了しました。



講演会場概観

2019年も、タレントトライアングルの Leadership および、Strategic & Business Management に関連する講演に重点を置き、参加されたプロジェクト・マネジャーのパフォーマンス向上に結びつくような内容の講演を提供しました。

奇しくも Festa 2019は「農業・食物」に関わるテーマの講演が3編あったほか、農業を含む「AI」に関わるビジネス、「AI」を介護行政に活かした事例紹介など今の時代を反映する「AI」がキーワードとなる講演が2編となりました。多くの農家の経営は苦しく離農者が年々増加し、食料自給率も年々低下する中、「AI×農業」の新

しい取り組みが各地・各方面で進められ、期待されているのを知るところとなりました。

このほか、日本陸連のランナー登録制度創設の仕掛け人、笑いを学問するコメディアン、プロジェクトを「花のチカラ」でリードするフラワーデザイナー、人気マンガとコラボした町興しクリエイター、パート主婦から転じて人気ホテルを創りあげた社長、プロジェクトの

成否はプロポーザル作成段階が鍵と説く協会代表理事など、多士済々の講師陣により、今年も参加者の方々から極めて高い評価をいただきました。

Festaにおける重要なプログラムの一つである交流会。2019年は同じ日吉キャンパス内にある来往舎ファカルティラウンジで開催しました。初日に登壇いただいた山本大祐様のほか、翌日にご登壇いただく櫻井はる枝様にも参席いただきました。

登壇者とテーマ

11月23日(土)	
【1】	JAAF RunLink (日本陸連 ランナー登録制度) 目指せ、登録者2,000万人とそのデータビジネス 早野 忠昭様 東京マラソン財団 レースディレクター
【2】	笑いの教育3.0 ～新時代に必要の笑いの学び方～ 矢島 伸男様 日本即興コメディ協会 代表
【3】	農業はイノベーションの宝庫 加藤 百合子様 株式会社エムスクエア・ラボ 代表取締役 CEO
【4】	介護×AI＝自立支援 ～生涯すこやかに暮らせるまちへの挑戦～ 佐原 光一様 愛知県豊橋市 市長
【5】	もう道に迷わない! AIプロジェクト実践編 ～IT企業が枝豆を売るワケ～ 山本 大祐様 株式会社オプティム 執行役員
11月24日(日)	
【6】	食べる宝石「ミガキイチゴ」誕生の軌跡 ～アグリテックが変える未来～ 岩佐 大輝様 農業生産法人 株式会社GRA 代表
【7】	花のチカラ。～プロマネのためのフラワーレッスン～ 櫻井 はる枝様 株式会社HARUE FLOWER 代表
【8】	ガルパンと共に歩み、楽しんだ大洗町 ～誰もが参加できる仕組みづくりと向き合い方～ 常盤 良彦様 株式会社Oarai クリエイティブマネジメント 社長
【9】	世界が認めた「上質な日常」～「庭のホテル 東京」の奇跡～ 木下 彩様 株式会社UHM 取締役
【10】	プロジェクトの成否は提案段階で決まる! ～体系的に学ぶ、PMとしての提案活動の進めかた～ 式町 久美子様 日本プロポーザルマネジメント協会 代表理事

会場は櫻井はる枝講師によるフラワーアレンジメントのおもてなしも加わり、受講者、講師の方々、PMI日本支部理事、ボランティア・スタッフを合わせて70余名による盛況な交流会となりました。

3年前に導入した同時中継システムは、夏の「日本フォーラム」、秋の「Japan Festa」ですっかり定着しました。

ご都合で会場に参加出来ない方々がPCやタブレットを使ってご自宅や外出先で聴講され、国内はもとより海外からも延べ300名を超える方々にご利用いただきました。

Japan Festaは日本支部が開催するセミナー・イベントとしては日本フォーラムに次ぎ開催規模が大きいものですが、企画・準備・当日運営は、日本支部の部会活動のひとつであるセミナープログラムのボランティア・スタッフによって全て進められています。前年度の反省・改善点も踏まえ、テーマ設定、講師選定から始まり、約10ヶ月の周到な準備期間を経て開催しています。



交流会



同時中継



セミナープログラム代表による開会挨拶



Festa2019統括PMによる開会挨拶



2名の総司会者



ボランティアによる受付



全員整列

関西10周年記念セミナー

2019年9月21日(土)、大阪駅前ブリーゼプラザにて関西支部の創立10周年記念セミナーが開催され、総勢158名の方にお越しいただき、盛大に執り行うことができました。

関西支部は、2009年12月に国内初の支部組織として関西に発足し10年。今や関西支部全体の計画策定やイベントの企画・実施を担う運営委員会と5つの研究会を抱える80名規模の大きな組織へ成長しています。今回は日本支部会員だけでなく、一般の方にも広く関西支部の活動を知っていただき、関西支部の今後の発展に資するイベントになりました。

冒頭の基調講演では、ニッセイ情報テクノロジー社長長部剛様より日本生命保険相互会社の情報システム部門責任者として、長年多くの大規模IT開発プロジェクトに従事されたご経験を踏まえ、プロジェクトを成功に導くためにリーダーとして心掛けてこられたこと等をお話いただきました。

研究会代表講演(その1)は、医療PM研究会代表宮原勅治様から「関西支部の生まれた頃のプロジェクトマネジメントと、これからのプロジェクトマネジメントに期待すること」と題して、医療プロジェクトにおけるマネジメント動向をご講演いただきました。

研究会代表講演(その2)では、IT上流研究会の戴春莉様より京都の伝統産業界で外国情報システム事業部責任者として従事さ

れたご経験を踏まえ、経営者目線+利用者目線+技術者目線でのPM実践事例をご講演いただきました。

最後の基調講演は、元京都市副市長で、レジリエント・シティ京都市統括監の藤田裕之様より人口減少時代に持続可能な社会の実現を目指した京都市のまちづくり事例についてSDGsを踏まえてご紹介いただきました。

今回のセミナーは、産官学とバランスの取れた構成で、講演後の名刺交換やセミナー終了後の交流会も非常に盛り上がり、業種の垣根を越えて互いに学び合う、参加者の積極的な姿勢が印象的でした。

こうして10周年に相応しい記念イベントが開催できたのは、これまで関西支部を支えていただいた皆様のお陰です。心より御礼申し上げます。



関西10周年記念セミナー

COLUMN

関西支部 運営委員会 ■ 杉原 秀保



2019年は関西支部10周年記念セミナーや関西セミナー(過去最多の3回)、家族参加型社会見学など運営委員長として多くのイベントを企画・運営させていただきました。現在、私は東京で仕事をしながら週末に関西支部活動をしています。関西は東京に比べセミナー等学びの場が少なく日本支部のサービスレベルに地域格差を感じています。

関西でセミナーを開催しても集客に苦労するケースもありますが、実績ある著名な講師から多くの学びを得られ、参加者からは毎回高い評価と感謝の言葉を頂けるのでやり甲斐を感じています。

興味をお持ちの方は是非関西支部活動にご参加ください。共に関西を盛り上げていきましょう。

非支部会員向けオリエンテーション

支部会員とはなっていないもののPMP®等のPMI資格を保有している方々を対象とした「非支部会員向けオリエンテーション」を2019年12月7日に開催しました。

本オリエンテーションはPMI本部および日本支部が提供するプロジェクトマネジメントに関する知識体系、最新動向、教育コンテンツ、部会(研究会)活動等の紹介を通して、その有用性を理解いただくことを目的としています。なお、当日は60名以上の方々にご参加いただき、20名の方がその場で入会の意思を示してくださいました。

第一部では元日本支部会長神庭氏による特別講演『DX時代に求められるPMスキル』、組織拡大委員会委員長である齊藤理事からのレクチャリング『PMI日本支部のご紹介/PMPの有効活用/PDU取得』、アジャイルPM研究会およびBA(ビジネスアナリシス)研究会の若手会員によるライトニングトークなど通じて、日本支部会員としてコミュニティ活動を行うことの意義と有効性について参加者の皆さまにお伝えしました。

第二部では参加者と支部会員有志による立食形式での交流会を実施しました。この交流会ではコミュニティ活動の中核である部会についてより深くご理解いただくために、各テーブルにPMテーマを設定し、関連部会の代表者がホスト役となり、入会後の活動イメージや部会活動によって得られる経験・スキルなどを語って



いただきました。このオリエンテーションは支部としてこれまでにない取り組みでした。企画から開催まで約2ヶ月という短期間での準備が求められましたが、最終的に8部会の方々に協力いただきコミュニティ横断的な取り組みとして実現できました。参加者アンケートでも95%以上の方々から「大変良かった・良かった」との回答をいただいています。

また、PMI本部から企画アドバイス、集客サポートなど手厚く支援をいただき無事成功裏に終了することが出来ました。

今回の開催経験を活かし、今後もこうした取り組みを継続的に行っていきたいと考えています。



海外動向フィードバックセミナー

プロジェクトマネジメントに関する海外最新動向を把握し、フィードバックを通じて現場実践者へ知見の共有を行うことを目的に、2018年に引き続き2019年も支部部会のアクティブメンバーに、PMIの二大イベントである「Global Conference North America」と「PMO Symposium®」に参加いただきました。

2019年はPMI本部創立50周年ということもあり、例年にも増して盛大に開催された二大イベントについて、その報告会を以下のようなアジェンダに基づいて12月6日(金)に東京神田で行いました。

1. オープニング
2. Global Conference2019 <2019年10月5日～7日に米国ペンシルベニア州フィラデルフィアで開催>
 - イントロダクション(麻生 重樹氏:PMI日本支部理事)
 - フィードバック-1(河々谷 健一氏:PMI日本支部組織的PM研究会)
 - フィードバック-2(石井 友美子氏:PMI日本支部PMタレントコンピテンシー研究会)
3. PMO Symposium®2019 <2019年11月3日～6日に米国コロラド州デンバーで開催>
 - フィードバック-3(勝連 城二氏:PMI日本支部関西ランチPM実践研究会)
4. 質疑応答
5. クロージング

海外動向を日本支部会員の皆さまへフィードバックすることを目的としているため、会員の皆さまには参加費無料とし、PDU受講証明書を発行する形で開催させていただきました。

定員は100名でしたが、満員での開催となり、満足度も高かったため、2020年2月にアンコールセッション



も開催しました。参加いただいた方の一番の理由も「プロジェクトマネジメント知識向上」が45%と最も多く、我々主催者側の開催目的と一致し嬉しい限りです。

出席者の勤務先も約30%は非IT系となっており、日本でのプロジェクトマネジメント動向にも変化が見取れます。またPM経験15年以上が50%を超えており、経験豊富な方々の参加者が多かった一方、女性の参加率は17%でグローバルとは大きな差がある状況でした。

2020年Global Conference North Americaは2020年10月17日～19日にワシントン州シアトルで、PMO Symposium®は2020年11月8日～11日にフロリダ州オーランドで開催予定です。アンケート結果からは36%の方々が「米国現地に参加したい」という回答をいただいております。日本支部としてもサポートしていきたいと考えています。また現地に参加できない方へは、今回のような海外動向フィードバックセミナーを継続して開催したいと考えています。



2017-2019中期計画総括

2019年度は日本支部会員数が5,000名を超え、世界でも有数の支部に成長しました。全体評価としては、この3か年は理事やアクティブメンバーのご支援により支部活動の諸施策が着実に進展し、支部活動の充実に貢献できました。

一部の施策は環境変化や体制面の未整備等で残念ながら目標未達となったものがありますが、概ね施策の具体化が出来、成果を挙げることができました。

目標達成	20施策
目標未達	5施策
未実施	2施策

目標未達施策コメント

1. PPPM 普及推進戦略の確立

ミッション委員会内に PPPM 普及WG を設置する等行ったが、活動不十分であった。

7. 日本支部のプレゼンス向上

IRC としては2017年ムンバイ支部、インドネシア支部のイベントに参加したものの、2018年、19年度は未実施となった。なお、理事やアクティブメンバーが海外コンgres等日本支部の取組を発表している。

12. 外部表彰

中国の表彰制度の調査、内閣府の表彰制度創設の協力等を実施し、支部表彰制度創設の研究は行ったが、日本支部から本部表彰制度の応募はできなかった。

21. ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化

リーダーシップミーティング2019でワークショップを実施、ソーシャルPM研究会のノウハウの展開等を行ったが、ガイドラインの発行には至らなかった。

25. 法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上

組織拡大委員会で検討を行ったが、施策の具体化、実施には至らなかった。

目標未実施コメント

4. 海外でのプログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントの活用事例の紹介

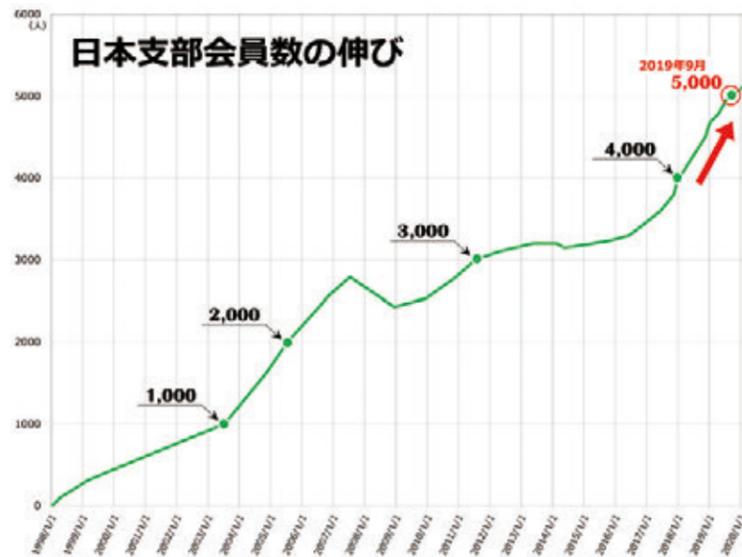
国際連携委員会の体制を確立できなかったため、理事散発的な取り組みで終わった。

11. REP との関係強化

推進主体を「REP 友の会」(REP 理事)の立場で積極的な動きが出来なかった。

各施策の取組以外で特筆すべき点としては、当初中期計画には挙がっていませんでしたが、各戦略委員会が日本支部創立20周年事業に注力したことが挙げられます。その中で、「タレント・トライアングル」の記念出版やアクティブメンバーの海外派遣はPMI戦略の具体化、グローバル化対応の充実に貢献できたと言えます。

また中期計画策定時には挙がっていなかった環境変化や課題についても柔軟に対応できています。PMI本部の戦略変更に対応する形で、リーダーシップミーティングでターゲットとなるPMのプロフィール、課題、対策等を検討し2020~2022中期計画に反映しています。組織拡大委員会によるSDGsへの取り組みと社会的な課題へもいち早く取り組む等、柔軟な対応ができたこと評価できます。



日本支部 2017-2019中期計画(実績)

No	施策名	目的	推進主体	評価
[I] PPPMの普及推進				
1	PPPM 普及推進戦略の確立	PPPM に関する内外の動向を調査、把握し、日本におけるニーズを分析して、PMI日本支部の戦略的な取り組みを調整、提起する	理事会	目標未達
2	PMI 標準翻訳	質の高いPMI標準書を邦訳する	標準推進委員会	目標以上
3	PMI標準の普及	翻訳されたPMI標準書を普及する	標準推進委員会	目標通り
4	海外でのProgram Management, Portfolio Managementの活用事例の紹介	普及の進んでいないProgram Management, Portfolio Managementでの定着	国際連携委員会	未実施
5	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用分野の開拓	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用について、ノウハウや知見をまとめ、普及の一助とする	ポートフォリオ/プログラム研究会	目標通り
[II] グローバル化対応				
6	PMIのリソースとグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及・グローバル化の推進	教育機関の取り組み課題である能動的な人材育成(アクティブ・ラーニングの強化)、世界で活躍できるグローバル人材の育成に貢献する	教育国際化委員会	目標以上
7	PMIJのプレゼンス向上	PMIJでの活動(特にIRC)をR9、R15等のカンファレンスで紹介し、グローバルプロジェクトを行う上での基礎知識として現地の方に広める。また、その機会を通してコミュニケーションチャネルを構築する	IRC	目標未達
[III] 他団体との連携強化				
8	PMIに關係する団体との連携によるPM普及、強化活動	PMを実際に活用するユーザーの団体と連携しPMの普及を図る	企画担当理事	目標通り
9	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応策としてのPMの普及、強化活動	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応についても関連団体連携し、実現の推進力としてのPMの実装、活用を推進する	企画担当理事	目標未達
10	国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化	高等教育機関、中等教育機関で、PMの基礎を現場の教育に取り入れることができる教員や教育協力者が増え、PM教育のすそ野を拡大させる	教育国際化委員会	目標通り
11	REPとの関係強化	会員サービスの向上/PMI方針・施策の浸透/市場ニーズの把握/個人会員の増加	REP友の会	未実施
[IV] PM適用分野の拡大				
12	外部表彰	PMI本部表彰制度を活用し、優れたPM実践者/組織を表彰することで、PMI日本支部とPMに対する社会的認知度を向上する	理事会	目標未達
13	PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	人材育成におけるPM教育の有効性、必要性を社会に広く認知させる	教育国際化委員会	目標通り
[V] 首都圏以外での活動拡大				
14	PM活動による地域における価値創出の促進	PM活動を地域社会の充実・活性化につなげるとともに、PM有効性を発展させる	地域サービス委員会	目標通り
15	地域におけるPM活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	PMコミュニティやランチ活動の認知度向上および、活動体制の強化につなげる	地域サービス委員会	目標通り
[VI] PMを通じた社会貢献の展開				
16	社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開	PMI日本支部として社会貢献活動を行うことによりPMの適用領域を拡大する	ソーシャルPM研究会	目標通り
[VII] 支部活動基盤の整備				
17	部会リーダー交流会の設定と運営	・部会間での連携強化 ・理事会や戦略委員会への要望や提言の場を提供する	PMコミュニティ活性化委員会	目標通り
18	戦略運営委員会の運営確立	PMI日本支部のガバナンス体制向上に向けた委員会改編に伴う体制確立	企画担当理事/戦略運営委員会	目標通り
19	複数の部会での共同企画の開催	・部会間での連携強化 ・お互いの知見を活用することによる企画の質や効率の向上	PMコミュニティ活性化委員会	目標通り
[VIII] アクティブメンバーへの支援強化				
20	リーダーシップスキル育成	各部会のアクティブメンバーの質の向上	PMコミュニティ活性化委員会	目標以上
21	ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化	各部会の活発な活動の実現を支援する	PMコミュニティ活性化委員会	目標未達
22	日本支部会員に対する価値ある情報の発信	PMI本部、日本支部、部会活動などの会員限定の情報を発信することにより、会員である価値を高め、リテンション率の向上とアクティブメンバーの増加をめざす	PMコミュニティ活性化委員会	目標未達
[IX] サービスの向上				
23	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上①	法人ごとのPMIに求める価値の仮説設定による木目細かな施策の展開	組織拡大委員会	目標通り
24	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上②	法人スポンサー拡大のために追加の特典、施策を検討し展開する	組織拡大委員会	目標通り
25	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上③	法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上	組織拡大委員会	目標通り
26	新規入会者へのガイダンス	新規入会者のリテンション率向上	PMコミュニティ活性化委員会*	目標通り
[X] 会員増強				
27	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	法人スポンサーの窓口経由で個人にアプローチし、いろいろなベネフィットの違いも提示して個人会員に誘導する	組織拡大委員会	目標通り

*組織拡大委員会から移管

2020-2022中期計画の策定

ミッションとビジョンを改定し、さらなる価値の実現へ

2020-2022の中計策定にあたっては、PMI本部の戦略変更を踏まえて日本支部のミッション、ビジョンと戦略の見直しを行いました。

2019年9月のリーダーシップ・ミーティングLM2019で部会リーダーの皆さんによる討議結果も参考にして議論を重ね、新しいミッションとビジョンは以下のように決定しました。

○ミッション

PMI日本支部は、会員がプロジェクトマネジメントを通じて、社会、組織、個人の価値を実現することに、持続的に貢献する。

○ビジョン

プロジェクトマネジメントを理解し、使いこなすことが、すべての世代の基礎スキルとして認知されている。

今後3か年の取組み方針としては、(1)すべての世代の「個人のライフステージ」に応じた価値を実現する、(2)支部から個人へ、個人から組織・社会へと、「プロジェクトマネジメントの有用性」の伝搬が、サイクルとして好循環するよう取り組む、の2点としました。

「個人のライフステージ」に応じた価値の実現については、プロジェクトマネジメント経験による個人セグメントのうち、これまでリーチが十分できておらず、将来性のあるセグメント「ネクスト・ジェネレーション」へのアプローチを重視していきます。ここには若手社員などジュニアPMや、学生などPM未経験者が含まれます。会員を軸とした個人セグメントでは、カスタマーが求める価値に応じたサービスを提供できるようサービス体系の整備を行っていきます。

「プロジェクトマネジメントの有用性」については、組織や社会で活躍できるよう個人のプロジェクトマネジメント・スキルの向上を図るとともに、組織に対してもPM育成や組織のプロジェクトマネジメント仕組みづくりなどの支援について、法人スポンサー制度を活かしながら行うことにより、好循環となることを目指していきます。

具体的な施策については、組織拡大委員会やPMコミュニティ活性化委員会などの戦略委員会で具体化し推進する予定です。従来にない施策については必要に応じて、新たな委員会やプログラムの発足も検討していきます。

日本支部 2020-2022中期計画

No	対象	施策	推進主体
1 カスタマー第一主義ですべての世代に魅力ある価値の提供			
1-1		プロジェクトマネジメントの適用領域の拡大 ・プロジェクトマネジメント手法の拡大(Agileなど)の研究 ・他団体との交流/協業によるプロジェクトマネジメント手法の要素拡充 ・プロジェクトマネジメントによる社会、組織への貢献	理事会 戦略委員会 未来創造プログラム(新設)
1-2		ナレッジマネジメントのしくみ構築 ・知識の作成~利用までのプロセス ・過去知識の整備と展開 (例)戦略的PMOの改版 ジャーナルの発行 ・発行責任組織/研究会等の成果の定期的な発行	未来創造プログラム(新設)
1-3	REP	REPとの関係強化	組織拡大委員
1-4	企業	業種別マーケティングによるIT領域以外への対応	組織拡大委員
1-5	法人スポンサー	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上	組織拡大委員
1-6	アクティブメンバー 支部会員 見込会員	支部会員のリーダーシップ育成	PMコミュニティ活性化委員会
1-7	アクティブメンバー 支部会員 見込会員	PMセグメントのニーズ把握と情報発信	PMコミュニティ活性化委員会
1-8	アクティブメンバー 支部会員 見込会員	PMセグメントに応じたサポート内容の充実	PMコミュニティ活性化委員会
1-9	地域	PM活動による地域における価値創出の促進	地域サービス委員会
1-10	地域	地域におけるPM活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	地域サービス委員会
1-11	学生、学生団体	アカデミックスポンサーとの双方向連携	教育国際化委員会
1-12	学生、学生団体	国内外高等教育機関、関連の学協会、海外チャプターとの連携	教育国際化委員会
1-13	学生、学生団体	PMI Talent Triangle教育・生涯教育に関して法人スポンサー、企業との連携	教育国際化委員会
1-14	学生、学生団体	次世代層、学生、若手への訴求	教育国際化委員会
2 プロジェクトマネジメントの社会への認知			
2-1	グローバル	PMIJの海外プレゼンス向上、PMIJの情報発信 PMI表彰制度への応募	理事会
2-2	ネクスト・ジェネレーション	・ネクスト・ジェネレーションへのプロジェクトマネジメントの認知向上 ・PMIの認知向上 ・PMP/CAMP増強	ネクストジェネレーション委員会(新設)
2-3	企業 教育機関	日本支部表彰制度の創設検討	理事会
2-4	PM他団体	PMに関係する団体との連携によるPM普及、強化活動	組織拡大委員会
2-5	PM他団体	イノベーション、デジタル社会への対応策としてのPMの普及、強化活動	組織拡大委員会
2-6	社会	社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開	組織拡大委員会
2-7	法人スポンサー	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	組織拡大委員会
2-8	行政	地域での産学官連携	地域サービス委員会
2-9	学生、学生団体	PMIのリソースとグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及・グローバル化の推進	教育国際化委員会
2-10	学生、学生団体	国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化	教育国際化委員会
2-11	学生、学生団体	PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	教育国際化委員会
3 持続可能な支部組織			
3-1		サービス体系の整備 ・カスタマ満足度を向上させるためのサービス提供のフレームワークを構築する ・各セグメントに応じたサービス提供の設定 ・サービス開発~運営までのプロセスを確立する 安定したサービス運営 ・サービスの運営プロセス確立	未来創造プログラム(新設)
3-2		タイムリーに情報提供/問い合わせ/場の提供に対応できるしくみの構築 ・PMIデジタルプラットフォームによる満足度の向上 ・SNSなどの新コミュニケーションツールの利用 ・PMIデジタルプラットフォームによる業務改革	未来創造プログラム(新設)
3-3		フォーラム・セミナーの満足度向上 ・事務局主催セミナーを含めた方針・フレームワーク策定 ・フォーラム・セミナーの更なる満足度の向上	セミナー担当
3-4		・PMI情報のタイムリーな展開 ・標準類の翻訳~出版までのプロセスの再構築	標準推進委員会
3-5		事業の健全性/継続性 ・事業を継続的に運営していくための事業計画策定 ・支部運営体制、ガバナンスの強化	理事会 戦略運営委員会
3-6		事務局の体制強化 ・多様なサービスに対応できるリソースの確保 ・施設強化(事務所の移転/拡充)	理事会 戦略運営委員会

COLUMN



中期計画策定ワーキンググループ ■ 野村 和哉

私が属するPMツール研究会では、プロジェクトマネジメントに使うツールの実践的な活用方法を研究しています。その一つに「バリュー・プロポジション・キャンパス+ビジネスモデルキャンパス」があります。その成果発表がきっかけで2020年度から始まる日本支部中期計画策定に適用いただくことが決まり、私自身も関わることとなりました。今回蓄えることができた本ツールのプロジェクト適用への実践知は、日本支部のメンバーにもフィードバックさせていただきます。これからも皆様とともに、わいわいがやがやと深い学びを得つつ前進していきたいと思っています。

PMI標準の最新情報

PMIの標準

PMI本部では、さまざまな標準類を開発、発刊しています。標準には、「基本標準」、「実務標準とフレームワーク」、そして「実務ガイド」の3つの種類があります。



3種類の標準

2019年はこれらの標準類が多く更新、追加されており、以下、これらについてご紹介していきます。

1. 基本標準

基本標準は、主にプロジェクトマネジメントに関する知識やプラクティスをまとめたものであり、PMBOK®、プログラムマネジメント標準、ポートフォリオマネジメント標準、組織的プロジェクトマネジメントなどがこれにあたります。また、これらに加え、プロジェクトマネジメントの上流となるビジネスアナリシス領域を中心にまとめた、PMI ビジネスアナリスト・ガイド第1版が発刊されました。

最近では、以下の2つの標準が追加されました。

○ リスクマネジメント標準

リスクマネジメント標準は、プロジェクト・リスクマネジメント実務標準の内容を更新、拡張したものであり、プロジェクトだけではなく、ポートフォリオ、プログラムも対象になっています。リスクマネジメントは、ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトの目標に対して、プラスまたはマイナスの影響を与える特定のイベント

または条件が発生する可能性があるという事実に対処します。

○ アーンド・バリュー・マネジメント標準

この標準は、アーンド・バリュー・マネジメント (EVM) 実務標準第2版を更新、拡張した内容となっています。EVMは、プロジェクトのパフォーマンスと進捗を客観的に測定し、プロジェクトの結果を予測するための有効なツールとなります。この標準についてもプログラムやポートフォリオとの関係、またアジャイルでの適用方法についても追加されました。

これらの2つの標準のように、今後も実務標準を経て、標準に格上げになるケースもでてくると考えられます。

2. 実務標準とフレームワーク

実務標準とフレームワークは、標準内で紹介されているツール、テクニックまたはプロセスなどについて、プロジェクトの実践者が実務として利用するための詳細が記述されています。今回、実務標準のほとんどが更新されています。

○ Work Breakdown Structure (WBS) 実務標準 第3版

WBSは、業界や分野に関係なく、プロジェクト計画プロセスの重要なコンポーネントとなります。WBSは、指定された作業を反映しながらプロジェクトの全範囲を整理し、プロジェクトの追跡方法を標準化し、発生した大きな不確実性を克服するのに役立ちます。今回の版では、アジャイル型、反復型、予測型、および漸進型とあらゆるライフサイクルに対応しています。

○ プロジェクト見積り実務標準 第2版

プロジェクトの見積りは、プロジェクトマネジメントにおいて重要な役割を果たします。プロジェクト初期での正確な見積りと見積りの精査を行うことにより、早い意思と価値の最大化ができます。この標準についてもアジャイルが追加され、より広いプロジェクト・ライフサイクルでも適用できるようになりました。

○ スケジュール実務標準 第3版

この実務標準では、プロジェクトをスケジュールリングするための実践に関する最新の考え方を提供しています。この版では、優れたスケジュールモデルの要素、その目的、使用、および利点を特定する方法を提供して

おり、アジャイルにおけるスケジュールマネジメントの進め方が追加されています。

3. 実務ガイド

PMIでさまざまな機関とプロジェクトマネジメントの実務に関するの先行研究(Pulse of the Professionなど)を行い、基本標準では表現できなかった実務的な内容を説明しています。新たに加わった実務ガイドは以下のものです。

○ ベネフィット・リアライゼーション・マネジメント (BRM) 実務ガイド

この実務ガイドでは、組織の戦略とポートフォリオ、プログラム、およびプロジェクトを整合させるためのアプローチを説明しています。さまざまなステークホルダーにどのようにベネフィットを提供し、どのように実行し、維持するかについて、実践者のための役立つフレームワークやガイダンスとなっています。

日本語翻訳について

標準推進委員会では、これらの標準類の日本語化を推進しています。現在、PMI本部が翻訳しているものは、PMBOK®、プログラムマネジメント標準、アジャイル実務ガイドです。上記以外の標準類は日本国内で翻訳することになりますが、翻訳者のボランティア・リソースの制約により、優先順位を決めて翻訳しています。2019年はPMI ビジネスアナリシスガイド、PMBOK® ガイド建設拡張版を翻訳・出版しました。また、その他のいくつかの標準類についても2020年に出版する予定であり、順次ご案内させていただきます。

PMIにおいては、すでにPMBOK®第7版の編纂プロジェクトが進んでおり、日本支部としても翻訳に積極的に協力していきます。さらに、これらの標準類については、従来の媒体だけではなく、外出先などですばやくアクセス可能なデジタルコンテンツなどを提供する予定であるとPMI本部のホームページでも案内されています。これからの標準類の展開に期待が膨らみます。

PMP® 認定試験

すでにアナウンスされていますが、2020年7月1日からPMP®認定試験が改訂されます。「人」、「プロセス」、「ビジネス環境」の各ドメインからの出題になり、複数のアプローチ(予測型、アジャイル型、ハイブリッド型)が組み込まれます。詳しくは日本支部のホームページでご確認ください。

また、日本国内でプログラムマネジメント・プロフェッショナル(PgMP®)の推進も継続して行っていますので、ぜひ多くの方々に参加していただきたいと思ひます。

50周年を迎えたPMI®の新たな取り組み

2019年に創立50周年を迎えたPMI®は、2019年12月末時点で、全世界215の国と地域に308支部と2支部候補、会員数は59万人を超え、堅調に組織拡大を続けています。PMP®などの認定資格保有者数は100万人を突破し、世界的にその認知度は高まっています。

1 POWERING THE PROJECT ECONOMY™

2019年は、PMI®の戦略目標である3つの柱、①戦略の集中、②お客様中心、③組織のアジリティ、に加え、加速するデジタル・トランスフォーメーションへの対応として、新たな方向性が示されました。その一つが、POWERING THE PROJECT ECONOMY™(パワリング・ザ・プロジェクト・エコノミー)です。テクノロジーの進化やビジネス環境の変化は、従来の組織ベースの働き方から、プロジェクト・ベースの働き方へのシフトを推し進めています。これは組織や業界、国や地域を横断して急速に広がりつつあり、仕事は機能や属性ではなく、何を成し遂げる必要があるかという点で定義されます。プロジェクトマネジメント人材は、それを実行するための最良の方法を見つけ、必要なスキルを身に付けていくことが求められます。この新しいビジネス環境下での働き方こそがプロジェクト・エコノミーです。これは、プロジェクトマネジメント人材のキャリアの形成にも、大きな影響を及ぼします。プロジェクトマネジメント人材が、ビジネスの成功を支える戦略的パートナーとしての価値を高める、新たな機会でもあるのです。

そのためには、タレント・トライアングルが示す理想的なスキル・セットである3つの領域(テクニカルなプ

ロジェクトマネジメント、リーダーシップ、戦略とビジネスマネジメント)に加え、新しいテクノロジーや仕事に応じたスキル育成を迅速かつ柔軟に行うことが必要です。現在は、デジタル・トランスフォーメーションを実現するために、デジタル・スキルが必要といえます。プロジェクトマネジメント人材には、成長思考のマインドセットや、ライフ・ロング・ラーニング(生涯学習)がさらに重要になってきます。



2019年のPulse of the Profession®「The Future of Work」では、PMTQ(プロジェクトマネジメント・テクノロジー指数)が、これからの組織や個人にとって重要であることが示されています。

詳しい内容は、日本語翻訳版をご参照ください。

2 アジリティ(俊敏さ)のさらなる強化

複雑化するビジネス環境や進化し続けるテクノロジーに俊敏に対応し、戦略目標を達成していくた



Pulse of the Profession® <https://www.pmi.org/learning/thought-leadership/pulse>
日本語翻訳版のリンク
https://www.pmi.org/-/media/pmi/documents/public/pdf/learning/thought-leadership/pulse/pulse-of-the-profession-2019.pdf?sc_lang_temp=ja-JP

めに、PMI®は強力なアジャイル・リソースとして、Disciplined Agile (DA) と、Net Objectives社からFLEXを買収しました。デジタル・トランスフォーメーションと、その先にあるビジネス成果をより迅速に達成するためには、従来のプロジェクトマネジメント・アプローチに加え、アジリティの推進が必要不可欠です。FLEXとDAは協業して独自のアジャイル認証を補完するソリューションを提供します。PMI®が培ってきた強力なコミュニティや資格認定制度と、DAが持つ経営レベルからチーム・レベルまで一貫性があり、柔軟なアジャイル・フレームワークを融合させ、幅広い層へのアジャイルの普及を進めていく予定です。

既に発表されているDAチャプター・チャンピオン・プログラムやDAコミュニティ等を通して、組織のアジリティ向上から、チーム・レベルのアジャイル手法まで、一層の推進が期待できます。

3 TED@PMI

PMI®は、プロジェクトマネジメントの価値をさらに広めるために、非営利団体であるTEDとパートナーシップを結びました。この提携により、プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメントの世界に変化を生み出し、新たな視点やアイデアを実現する力となることが期待できます。TED@PMIはTEDとの共同で行われる1日のイベントであり、既に2019年の北米グローバル・コンファレンスで開催されました。2020年のコンファレンスでは最大15名のスピーカーが登壇する予定です。YouTubeにTED@PMIの紹介動画が掲載されていますので、ご視聴ください。



Introducing TED@PMI! YouTube
<https://www.youtube.com/watch?v=AuhEr3c1wbA>

4 PMI®が進めるデジタル・トランスフォーメーション

PMI®は2017年にスタートしたPMI初のポッドキャストProjectified™に加え、2018年にはゲーム感覚で楽しめるPM EDGE™を発表しました。2019年には学びの多様化に向けて、新たなデジタル・コンテンツの開発を進めています。また、従来は書籍販売のみであった標準

ガイド等についても、デジタル版の販売に向けた準備が進められています。

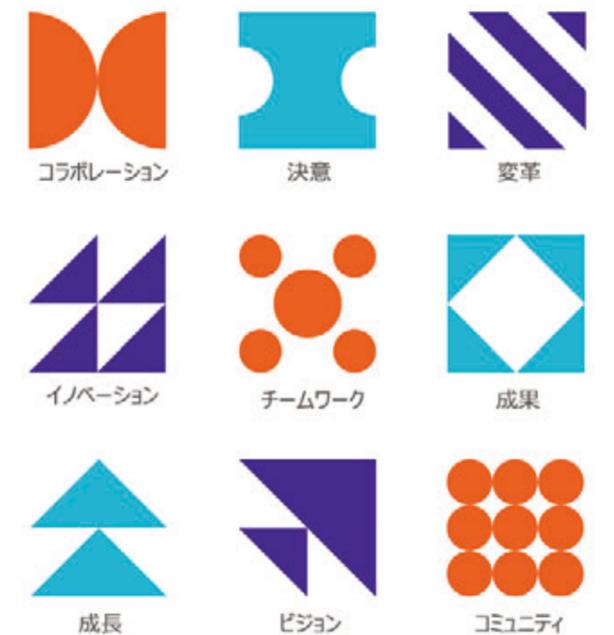
ProjectManagement.comのWebsite :
<https://www.projectmanagement.com/>

Projectified™のWebsite :
<https://www.pmi.org/learning/training-development/projectified-podcast>

PM EDGE™のWebsite : <https://edge.pmi.org/>

5 次の50年に向けて

2019年の北米グローバル・コンファレンスの場で、次の50年に向けた新たなブランド・ロゴが発表されました。新たなPMI®ブランド・ロゴは9つのビジュアル・アイデンティティから構成されており、その一つひとつがPMI®のこれまでの歩みと、これからプロジェクト・エコノミーを推進していくために必要な資質を兼ね備えています。2020年、PMI®は次の50年に向けた新たな1年目をスタートします。プロジェクト・エコノミーの推進はもとより、プロジェクトマネジメントがライフ・スキルとしてあらゆる世代に浸透する活動をPMI®は目指しています。



PMI®新たなブランド・ロゴのビジュアル・アイデンティティ

海外コンgres

PMI本部は2019年に創立50周年を迎え、年間を通してお祝いのイベントが多数開催されました。

PMIが主催する大きなイベントには、春にヨーロッパ中東地域で開催される EMEA Congress と、秋に北米で開催される NA Global Conference があります。著名なスピーカーによる基調講演のほかに、厳選された100を超えるセッションが行われ、最新動向の学びの場、知見の共有の場として、世界中から多くの方が参加されます。

2019年は、これまでの50年間の歩みを振り返ると共に、次の50年に向けた新たな戦略や取組みが発表され

ました。テクノロジーの進化によりビジネス環境が大きく変わる中、プロジェクトマネジメント人材が直面している課題や新たなスキル獲得について、多くの議論がなされました。

また、例年秋には経営者やPMOなどが多く参加するPMO Symposium®が北米で開催されます。2019年は多くの企業がデジタル・トランスフォーメーションを推進する中で、ビジネスや組織のアジリティ(俊敏さ)、およびPMOの役割と求められるスキルについて多くのセッションが行われました。これまでのプロジェクトを統

括管理するPMOから、より経営組織と密に連携し、経営戦略を実現するEPMO(会社レベルのPMO)へのシフトの重要性が示されました。

このほかに、各支部理事などのボランティア・リーダーを対象としたLIM (Leadership Institute Meeting) や各支部が主催する日本フォーラムと同様のイベントがあります。2019年はアジア・パシフィック地域のAP LIM、EMEA LIM、そしてNA LIMが開催され、PMIの新たな戦略の展開や、支部運営に関するスキル育成が行われました。LIMは各支部リーダーとのネットワーク構築や、

支部運営のノウハウの共有を図る貴重な機会でもあります。日本支部は、AP LIMで組織拡大のベスト・プラクティスとして研究会活動について発表を行いました。

日本支部では、今後も海外コンgresで発信される最新動向のフィードバックを行うと共に、得られた知見を取り入れ、さらなる支部活動の活性化に努めてまいります。



2019年 NA Global Conference のオープニング

※ 部会代表者



2019年 AP LIM の集合写真

2019年度 海外コンgres開催地と出張理事					
	日時	会議名称	開催地	人数	氏名
2	2月22日~24日	PMI Leadership Institute Meeting 2019 -Asia Pacific	ベナン	6	奥澤会長、片江副会長、浦田副会長、麻生理事、水井理事、吉田事務局長、Rajeev Supekar*
3	5月10日~12日	PMI Leadership Institute Meeting -EMEA	ダブリン	1	渡辺理事
4	5月13日~15日	PMI Global Conference -EMEA	ダブリン	1	渡辺理事
5	10月3日~5日	PMI Leadership Institute Meeting -North America	フィラデルフィア	7	奥澤会長、片江副会長、端山副会長、浦田副会長、麻生理事、水井理事、中嶋理事
5	10月5日~8日	PMI Global Conference -North America	フィラデルフィア	2	石井友美子*、河々谷健一*
5	10月9日~10日	PMI China Congress	上海	1	中嶋理事
7	11月16日	PMI Hong Kong Congress	香港	1	片江副会長
8	11月23日~24日	PMI Taiwan International Congress	台北	3	端山副会長、水井理事、井上理事
9	11月3日~6日	PMO Symposium®	デンバー	1	勝連城二*

COLUMN



PMO Symposium® 2019参加者・関西ランチ PM実践研究会 ■ 勝連 城二

PMI 設立50周年の記念すべき2019年11月、コロラド州デンバーで開催されたPMO Symposium®に参加しました。久々のUSAであり、空港、市内、現地の人々の変化に、また会場である最新のコンベンションセンターでの斬新かつ配慮の行き届いた運営方法、スマホ端末をフル活用した利便性の高いセッションサポート体制など多くの点で新鮮かつ、驚きの連続でした。また、DX時代のイノベティブなビジネスモデルのUber社の配車システムを初めて現地で体験しました。その使い勝手、コスト、待ち時間に対して最高のサービスの提供を実感し、爆発的に急成長した理由の一端を意味する顧客経験(CX)に、想定外の感動と有意義なUSAでの学びの時間を得られたことに心より感謝します。今後多くのPMにPMO Symposium®参加をお勧めしたいと思います。

個人会員制度

▶ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®などの取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

▶ 日本支部会員の特典

① セミナー受講費の割引

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連セミナーなど各種セミナー(下表および次ページの図を参照)に割引価格で参加いただけます。また、PDU、PMP®受験研修時間、ITC実践力ポイントなどの受講証明書を発行します(地域セミナーなど一部に発行対象外のものもあります)。

規模	セミナー名称	PDU	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
大規模 (数百人)	日本フォーラム (2日間)	12			★	
	Japan Festa (2日間)	9~11				★
中規模 (100人)	月例セミナー (2時間/回)	2	★	★	★	★
	各種フリーセミナー (3~4時間/回)	3~4			★	★
小規模 (10~30人)	PMBOK®セミナー (2日間)	14			適宜	
	アジャイルPM、デザイン思考、ソーシャルPM、PMO、リスク、ステークホルダー、ケースメソッド、PMBOK6版紹介、PgMP資格取得講座などW/S(1日)	6~7			適宜	

② 各種委員会、研究会などへの参加

各種の委員会、研究会等に参加することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々との

情報共有・交流(Zoom等も活用)しながらPDUも取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されています。2019年は25部会から39編の発表がありました。

【戦略委員会】

- ①地域サービス、PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進

【研究会】

- ①IT、②IPPM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨女性PMコミュニティ、⑩IRC、⑪アジャイルPM、⑫ソーシャルPM、⑬ステークホルダー、⑭ビジネス・アナリシス、⑮プロジェクトマネジメント、⑯PM教育、⑰PM翻訳・出版

【プログラム】

- ①PMBOK®セミナー、②セミナー

【関西ランチ】

- ①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

【中部ランチ】

- ①運営委員会、②PMサロン/セミナー、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

③ プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページを通じて「PMBOK®ガイド」やプログラムマネジメント標準などのプロジェクトマネジメント関連書籍を会員価格(一般価格の6割~9割)で購入いただけます。



④ 翻訳記事やPMBOK®テンプレート集などの閲覧、ダウンロード

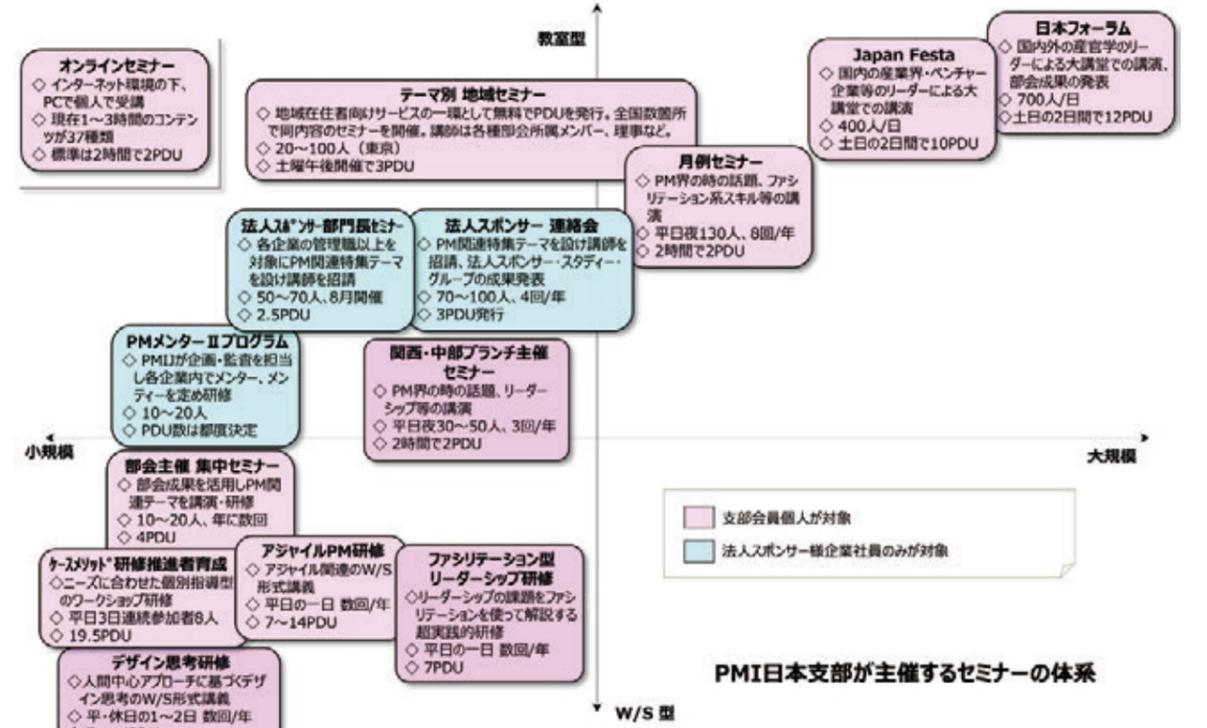
会員専用ホームページで、PMI本部が発行しているPM Network®やPMI Today®などの翻訳記事を参照できるほか、プロジェクトマネジメント研究会やPMタレントコンピテンシー研究会、リスク・マネジメント研究会など部会メンバーが作成した実務向けのテンプレートをダウンロードしてご利用いただけます。また、日本支部における過去の翻訳プロジェクトの成果を取り入れてガイドラインとしてとりまとめた日本語表記法を参照いただけます。

▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、入会時の総必要額189ドルは、例えば日本フォーラムに2日間通して

ご参加いただいた場合の会員価格と一般価格の差額に相当します。日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

PMI本部		PMI日本支部	合計
入会費	年会費	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル



[参考] 日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2016	2017	2018	2019
PMI日本支部会員	3,422	3,932	4,633	5,078
CAPM®資格保有者	98	119	145	179
PMP®資格保有者	34,451	36,308	36,437	38,191
PfMP®資格保有者	3	3	3	6
PgMP®資格保有者	4	5	7	9
PMI-RMP®資格保有者	6	7	8	10
PMI-SP®資格保有者	4	4	4	4
PMI-PBA®資格保有者	3	4	10	12
PMI-ACP®資格保有者	24	35	60	94

[参考] 全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2016	2017	2018	2019
PMI会員	472,269	500,461	556,839	593,211
CAPM®資格保有者	32,868	34,504	37,258	41,339
PMP®資格保有者	745,891	827,960	884,518	997,608
PfMP®資格保有者	403	506	640	819
PgMP®資格保有者	1,788	2,173	2,550	2,861
PMI-RMP®資格保有者	3,886	4,540	5,051	5,591
PMI-SP®資格保有者	1,603	1,782	1,910	2,072
PMI-PBA®資格保有者	1,127	2,020	3,073	3,982
PMI-ACP®資格保有者	14,021	19,295	24,998	32,781

新入会オリエンテーション

新入会オリエンテーションは、新しく日本支部に加入いただいた個人会員の皆さまに、①PMI本部、②日本支部、③部会活動などご理解いただき、会員価値を最大限に活用していただくことを目的に、2017年度から参加費無料で行っています。

2019年は東京で4回、大阪で1回の計5回開催しました。

2019年も毎月100名を超える方々に入会いただきましたが、四半期に一度開催している当オリエンテーションでは毎回30名以上の方からお申込みいただいています。45分で上記①・②・③をご説明し、最後にまとめて



「Q&Aタイム」を設定しています。その後のネットワーキング(交流会)では理事、事務局員、部会(研究会)で活

動しているボランティアの方々を含めてオープンなコミュニケーションの場を設けています。これにより、フランクな雰囲気の中、「Q&Aタイム」では聞けなかったことなども確認でき、同じ時期に入会された会員同士の繋がりも拡大できることから、大変好評をいただいています。

参加者の方々の傾向として、非IT系の方々が増加してきており、これは日本の経営環境の変化が反映されていることが感じ取れます。

2020年度は東京、大阪以外に名古屋でも開催を予定しています。支部に入会された方、入会したが活動方法や特典がわからないといった方々はお気軽にご参加ください。



法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

法人スポンサー・プログラムとは、組織(企業、教育機関、行政機関等)でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心をもち、日本支部のミッションに賛同し、活動を支援して下さる組織の皆さまに対し提供するプログラムです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

❖日本では数少ない、組織のPM部門長、プロジェクトマネジメント推進ご担当およびPM同士の意見交換、相互研鑽および、人脈拡充の場です。国内外のプロジェクトやプロジェクト・ベース・ビジネスに関する最新のトレンドや技術やその背景について、イベント参加

者や関連分野の専門家を講師として招聘、学習し意見交換を行います。法人スポンサー会合は年5回、定期的

に開催しており、多くの方々に参加いただいています。❖社員の皆さまは、プロジェクトマネジメントに関する研鑽の場となる勉強会(スタディー・グループ、月次開催)に参加できます。勉強会は業種、企業の枠を超えた研鑽、交流の場となっています。

❖メールマガジンにより法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し、特別割引が受けられます。

❖法人スポンサーとして会社ロゴ、会社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。

COLUMN



新入会オリエンテーション参加者 PMO研究会 ■ 佐々木 一仁

PMO研究会への参加を検討していたため、2019年に日本支部へ入会しました。いきなりPMO研究会へ参加申請してもよかったのですが、関係者の方から情報収集した後に参加申請できないかと考えていたところ、新入会オリエンテーションの案内があり、渡りに船で参加させていただきました。研究会の活動内容だけでなく、見学も可能という情報も紹介いただいたので、後日、安心して参加申請することができました。

また、月例セミナー、Japan Festa、部会主催セミナーなどのさまざまなイベントの紹介もあったので、可能な限り参加させていただいています。イベントへの参加は当初の入会目的ではありませんでしたが、広く学ぶ機会が得られて大変満足しています。

2019年 法人スポンサー・プログラム実績

(1)法人スポンサー連絡会^{※1}、PM部門長セミナー^{※2}

法人スポンサー様の社員のみが参加いただけるもので、参加者には無料でPDU受講証明書(通常3PDU)を発行します。法人スポンサー連絡会は四半期ごとに開催しており毎回100名超の参加を得ています。



PM部門長セミナーはPM部門長向けに毎年8月に開催しており50~70名の参加をいただいています。

※1 PMおよびPM人材育成部門の方々に、PM界の最新情報をお伝えします。

※2 PM部門長の方々に、部署をリードする際に必要な最新の知識をお伝えします。

(2)法人スポンサー・スタディー・グループ

スタディー・グループは、法人スポンサー様の社員のみで構成される勉強会で、企業が共通して抱える課題、対応すべき事柄について意見交換、調査研究を行っています。2019年は延べ54社から58名の方々の参加のもと、4グループが活動しました。

各スタディー・グループの活動概要は下記の通りです。なお、PMコミュニティ・スタディー・グループは、目的を達成し2019年3月末にて活動を終了しました。

◆人材育成スタディー・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し研究しています。2019年度はプロジェクト・マネジャーが直面する「あるある問題場面」を人間力で解決する方法について研究し、その成果は「困ったときの解決ガイド」として具体化中です。

◆若手PM育成スタディー・グループ

若手PMの育成方法について各社の取り組みを共有しています。各社ごとの事例・特徴の見える化、育成体系および資格認定、運営面および課題について整理し日本フォーラム2019で発表、現在そのフィードバックを取り込んだ施策を検討しています。

◆PMコミュニティ・スタディー・グループ

PMコミュニティの目的/狙い、立上げ、運営の観点で整理したマインドマップをとりまとめ、2019年3月末にて活動を終了しました。その成果は日本フォーラムで発表したほか、法人スポンサー企業様にリリースしました。

◆ケースメソッド・スタディ・グループ

難度の高いプロジェクトに対峙するPMの育成は各社喫緊の課題となっています。本SGはケースメソッドを用いた研修の立ち上げ、ケースの作成、研修の実施の3つのステージの成果物を各自が自社に持ち帰り、そのまま実研修に活用できるアウトプットの作成を目標として活動しています。

(3)メンタープログラムII

◆メンタープログラムIIとは

法人スポンサー様限定のプログラムです。企業が持つプロジェクトマネジメントに関わるノウハウの継承、実践力強化、トラブル対応力強化、技術習得のための教育をグループ・メンタリング形式で実現するものです。参加するメンター、メンティーの双方がPDU受講証明書を取得できるメリットがあります。

◆対象領域

プロジェクトマネジメントの遂行に必要な関連知識、「PMBOK®ガイド」の知識エリアおよびPMプロセス、PMIが設定したプロジェクトマネジメントに関わる各種標準などが対象となります。

◆カスタマイズされた教育プログラム

企画段階で日本支部が支援させていただき、各企業の環境(知識、経験、対象部門等)に合ったプログラムを設計します。また、場所・日程・時間帯についても都合に合わせた教育プログラムの設計が可能です。

◆2019年度の実績

2019年度は大手シンクタンク、プラント、POSレジ・店舗機器・システムなど多岐にわたる業界の3社のご利用をいただきました。

2019年度 法人スポンサー連絡会等での講演実績	
3 月 度	特集:ビジネス戦略とプロジェクトマネジメント ①AI活用システム分野への進出 講師:高津 聡氏/株式会社クレスコ 先端技術事業部 事業部長 ②PMO Symposium® 2018 講師:芳賀 健治氏/PM教育研究会、芳賀 和郎氏/リスク・マネジメント研究会
6 月 度	特集:チェンジマネジメント ①組織におけるチェンジマネジメントの実現 講師:池田 修一氏/PMI日本支部理事/株式会社ポジティブ・ラーニング代表 ②チェンジマネジメントを支えるプログラムマネジメント標準ver4.0紹介 講師:林 宏典氏/元PMI日本支部 PFM/PGM代表
9 月 度	特集:ニュービジネスへの挑戦 ①PMIビジネスアナリシスガイド紹介 講師:庄司 敏浩氏/PMI日本支部 ビジネスアナリシス・ガイド翻訳チーム リーダー ②自社ニュービジネスを担うブロックチェーン 講師:宇田 茂雄氏/日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバルビジネス技術本部 技術顧問
12 月 度	特集:これからのPMに求められるもの ①PMI LIM2019について 講師:奥澤 薫氏/PMI日本支部会長 ②デジタル時代のPMはこう変わる 講師:佐藤 賢治郎氏/PMI日本支部 PMタレントコンピテンシー研究会 ③SG活動報告 講師:各SG推進者/人材育成SG、若手PM育成SG、ケースメソッドSG
部門長 セミナー	特集:大規模プロジェクトマネジメント ①大規模プロジェクトマネジメント成功のカギ 講師:宮下 律江氏/株式会社エターナリア代表、JALインフォテック元執行役員 ②現場観察で見出したマネジメントのメカニズム 講師:平尾 英司氏、矢野 有美氏/日本電気株式会社

アカデミック・プログラム

当プログラムは“プロジェクトマネジメント (PM) に関する知識・素養が、今後社会に求められる人材のジェネリックスキルであることを広く発信し、PM教育の普及を推進する”をミッションとして2010年以来継続的に取り組んでいるものです。

教育国際化委員会の活動

この分野での支部活動をより発展させるために教育国際化委員会を2017年1月に設置し、大学・高専と産業界のメンバー15名によって活動を開始しました。2019年は、その3年計画の三年目、区切りの年となりました。

主要活動の枠組みとして、

- 情報発信
- 情報交流 ～支援活動とハブ機能の強化～
- PMIリソースとグローバルネットワークの活用

を定め、日本フォーラムでのアカデミック・トラックを活動の軸としてPM教育の共通教材、グローバルPBLを含む産学・国際連携、PMIグローバル・リソースの紹介などのテーマに取り組んできましたが、2019年度は新たにコンピテンシー/リフレクションを加え実践能力への総合的アプローチを強化しました。12月には「PM基礎の基」のワークをフォローするため大阪でミニ・スポンサー会議を開き、議論の継続を図っています。

情報発信

- ◆ 支部ホームページの中に新たに設置したアカデミック・ページの内容の拡充を図りました。2019年度はニューズレター発信とフォーラム・アーカイブ登録が中心でした。
- ◆ 日本フォーラムの中でアカデミック・トラックを設け、今回8回目の開催となりました。2019年度は以下の構成で、高い評価を得ることができました。



日本フォーラムでの講演風景

● 修士レベルでのインターンシップ体系の中でのプロジェクト・デザイン教育の位置づけ、地域に密着した高専環境とプロジェクト・リーダーの必要性の2件の事例紹介

● PM教育裾野拡大のテーマの中で議論してきた「PM教育基礎の基」とは？のまとめ

● キャリア開発で企業から大学に転進される方への準備道程に関する大学からの助言と事例紹介

● PMIグローバル・リソースの紹介

● コンピテンシー/リフレクションに対する提案

● 3つのテーマでオープンワークショップの試み（「PM基礎の基」、共通教材、産学連携PBL）



オープンワークショップ風景



熱心な議論のログ

COLUMN



舞鶴工業高等専門学校 校長 ■ 内海 康雄

仙台高専にいたときからアカデミックトラックなどに参加させて頂いています。ここ10年位は、東日本大震災からの復興とそれに伴う技術者教育、地方創生に関する地域課題の解決などに、ステークホルダーと共にPMを念頭にして取り組んでいます。日本の教育にはPM視点が必要だと感じています。

加えて近年は、東南アジアから高専への協力要請が多く、モンゴル、タイ、ベトナム、マレーシアなどで、高専全体が展開を進めています。教育国際化委員会におりますので、これから何かお役に立てたら良いと思います。

- ◆ PM教育の意義について教育機関に対する働きかけに加えて学生の参加促進プログラムに対する取り組みも進め、その一環で慶應大学SDMにおけるワークショップの開催(2回)と学生によるプロジェクト計画作成ワークショップを開催しました。



日本支部事務局でのワークショップ

情報交流 ～支援活動とハブ機能の強化～

◆アカデミック・スポンサー登録の拡充

この分野のコアとなる教育機関としてアカデミック・スポンサー制度を推進してきましたが、2019年末時点で大学院、大学、高等専門学校、国立研究開発機関から43校・47部門と2研究機関の計49の登録を得ています。この中から支部研究会との共同プロジェクトという新たな芽も生まれました。

◆アカデミック・スポンサー会議の開催

日本フォーラムの二日目の午後の3コマをオープンワークショップに充て、従来のアカデミック・スポンサー会議を一般参加者も含めた議論の場として設けました。PM教育に取り組む教育関係者、民間実践者との意見交換・交流機会と位置付けています。12月には「PM教育の基礎の基とは？」のテーマに絞ったミニ・スポンサー会議を大阪で開催しました。

◆E-Learningパッケージ「一歩シリーズ」の大学、総務省への提供

- 中央省庁のIT人材育成プログラムの教材として提供した「PM始めの一歩」(15分4巻)と「PM次の一歩」(15分6巻)は、2019年度には852名(累計1,838名)の受講が完了し、88%の方々から高評価を得ました。
- 大学では中部大学での活用が始まるとともに、新たに東京都市大学、江戸川大学、愛媛大学(修士)での

行政プログラム

日本支部には、行政スポンサー制度があり、現在、三重県桑名市、滋賀県大津市市民部にご登録いただいています。デジタルガバメントを目指す自治体では、施策の確実な実行や、市民への価値提供、また、自治体自体の働き方改革も行っていく必要があります。さらに世界的なSDGsの取り組みにより、多様な社会プロジェクトも発生しています。

このような背景の下、各行政機関においてプロジェクトマネジメントを施策実行に活用し成果を出すこと



教材スライドの一部

新コースの教材として提供しました。

- また、PMBOK®第6版対応のバージョンも完成させました。

◆(社)日本工学教育協会(日工教)との連携

ハブ機能の一環として日工教との協賛で「工学教育研究講演会プロジェクトマネジメントとPBL」を一般セッションとして実施、2セッション12講演のうち日本支部から3名が講演しました。3月には企画協力した日工教との連携による教員向けPM教育を実施しました。

PMIリソースとグローバルネットワークの活用

PMI教育財団(PMIEF)は、小・中・高の教育機関や関連NPOにプロジェクトマネジメントを普及する活動を行っている財団です。日本でも2017年後半からリエゾンチームを形成し、継続的に活動しています。

PMIEFコンテンツの翻訳・提供を継続し、“PM for Education”および、“人生プロジェクトのマネジメント”を翻訳、提供しました。PMIEFコンテンツ(紙コップタワー)を活用したセミナーをサイエンスアゴラ、社会起業大学(2回)での機会に提供しました。

また、PMIEFの趣旨に賛同して日本支部として\$1,000の寄付を行いました。



サイエンスアゴラの風景

の重要性が増していることを受け、日本支部やブランチ主催のイベントでは、これまでに豊田市様、京都市様など自治体ご担当者による講演も行っていただいたほか、札幌市の方々へのプロジェクトマネジメント講座なども実施し、連携を深めつつあります。

今後も、地域サービス委員会と連携しながら産・学・官での価値創出を目指し、行政関係の皆さまや地域の活動体へプロジェクトマネジメントに関する実践適用・普及を目指して働きかけを進めていきます。

部会活動

部会活動

日本支部会員の特典の大きな醍醐味は、「部会活動」への参加です。同業・異業種のプロジェクト・マネジャーの方々と
の交流による情報交換、自己研鑽は会員の皆さまの日々の
プロジェクト遂行の糧となっています。

2019年は以下のように38種類のグループ活動が活発に行
われました(法人スポンサー社員の活動を含む)。

【首都圏中心の支部会員による活動】

委員会:6、研究会:17、プログラム:2

【関西ランチ所属支部会員による活動】

委員会:1、研究会:5

【中部ランチ所属支部会員による活動】

委員会:1、研究会:2

【法人スポンサー社員による活動】

スタディ・グループ:4

また、個々の部会が培ったノウハウを共有し新価値を創造
する部会横断活動も活発に行われています。

首都圏中心の支部会員による活動

地域サービス委員会

首都圏以外の地域在住の会員の方々へのサービス向上、地域
コミュニティ活性化を目標に活動しています。

2019年も引き続き、地域セミナーの企画および実行を担い、
全国9ヶ所でセミナーを開催し、延べ150人以上の方々に参
加申込みいただきました。

2019年は、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る
参加型のワークショップでした。当委員会メンバーおよび
関西ランチPM実践研究会あかね実践工房のメンバーが
協働で講師となり、地域セミナー初のワークショップ形式
により、実践的にプロジェクトマネジメントを学ぶ機会を
ご提供できました。これをきっかけに学ぶ機会を自ら企画・
運営するコミュニティも創出されつつあり、今後も地域の
皆さまの期待に応えて進めてまいります。

PMコミュニティ活性化委員会

日本支部会員のコミュニティを活性化する交流の場や情報
を提供し、アクティブメンバーの増強と日本支部の価値向上
に貢献することが目的です。2019年度は部会リーダーと共
に、日本支部の価値向上施策や部会コミュニティを活性化す
る施策を策定することを目標に活動しました。

4つのWG(①リーダーシップ推進、②部会連携、③情報
発信、④ボランティア活動支援)を通じて、研究会・委員会
等の部会(支部会員コミュニティ)の活性化を推進してい
ます。2019年は、部会リーダー育成のためのリーダーシ
ップミーティング「LM2019」を9月に開催しました。これは
日本支部における重要な恒例イベントの一つとなってい
ます。また、「部会リーダー交流会」を4回開催し、相互の活
動内容の理解、連携の促進につながっています。さらに「新
入会員オリエンテーション」も初の関西を含めて
5回開催し、新支部会員
への情報提供と部会コ
ミュニティへの参画を支
援しました。



LM2019(9月開催)全参加者の記念撮影

組織拡大委員会

個人会員および法人スポンサーの増加につながる施策を検
討し実施しています。2019年度は法人スポンサーの維持・拡
大に関する活動の他、日本支部の対外的な認知度向上につな
がる新しい取り組みを企画・実施しました。

法人スポンサーに対しては、
情報・交流機会の提供を引き
続き行うとともにPMニーズに
関する傾向分析を実施するなど、
法人スポンサーの維持・拡大に
つながる活動を行いました。

認知度向上施策では、昨年
と同様に他団体との連携に向けたコンタクト活動を行いつ
つ、ビジネスプランコンテストへの協賛、内閣府「地方創生
SDGs官民連携プラットフォーム」での活動、PMP®取得者・
取得予定者向けの支部紹介イベントも新たに実施しました。



PMP取得者・取得予定者向け
支部紹介イベント

教育国際化委員会

PMに関する知識・素養が、今後社会に求められる人材のジェ
ネリック・スキルであることをアカデミアに対して働きかけ、
実現させることを目的としています。

委員会は、全国に広がる大学・高専と産業界のメンバー
によりテレビ会議で毎月開催しています。2019年は、日本
フォーラムにおけるアカデミック・トラック(2012年から継
続)、日本支部ホームページ(2017年度から開始)におけるア
カデミック・プログラムの充実、独自ニューズレターの発行
など情報の蓄積・公開を行いました。

また、2017年度に発足した「アカデミック会議」の第三回
目を「PM教育基礎の基」をテーマに大阪で開催しました。
さらに、小中高やNPOに対するPM教育の普及を目指した
PMI教育財団(PMI EF = PMI Education Foundation)のリエ
ゾン活動を行うための国際連携チームの活動を継続し、グ
ローバルリソース
の翻訳・紹介や学
生参加のワーク
ショップ開催な
どを行いました。



日本フォーラムにおけるワークショップ

標準推進委員会

PMIの標準書、実務ガイド等を調査、選択、邦訳し、日本のM
コミュニティへ提供することを趣旨として活動しています。

標準推進委員会では、2019年はビジネスアナリスト・ガイ
ド、PMBOK®ガイド 建設拡張版を翻訳し出版しました。また、
Project Manager Competency Development Framework
Third Edition、The Standard for Organizational Project
Management、The Standard for Portfolio Management -
Third Editionについても現在翻訳を推進中です。また、PMI
本部が翻訳した標準類の品質向上についても昨年より支援
を継続しています。これらはボランティア活動によって
いるため、体制(翻訳教育)や基盤(翻訳ツールの導入)などの
整備も合わせて実施しています。

PMI本部では、新しい標準や実務ガイドが既にリリースさ
れていることに加え、コンテンツのデジタル化も検討され
ていることから、今後も本部と協調し日本支部の皆さまに情
報をタイムリーに提供する仕組みを構築していきます。

IT研究会

情報システム構築やITプロダクト開発といったICTビジネス
におけるプロジェクトマネジメントをテーマに、関連するベ
スト・プラクティスの研究、メンバーのスキル研鑽、情報共有・
交換を行っています。2019年度はITプロジェクト現場におけ
る Hints & Tips を取りまとめ、IT系 若手プロジェクト・マ
ネジャー向けガイドの作成を目標に活動しました。

ITプロジェクト現場における Hints & Tips の作成は2016
年度からの継続活動です。2019年はPMBOK®第6版を活用
し、日々のプロジェクト現場で起きているリアルな問題を
共有・議論し、Hints & Tips のネタとして収集しました。多種
多様なキャリアを持つメンバー同士で議論を行うことにより、
メンバー自身の新たな気づきや成長につながりました。

デジタルイノベーションの進展とともにITプロジェクト
現場で起きつつある新たな課題全般についてもテーマとし
て掘り下げて、新時代のベスト・プラクティスとしてこれか
ら取りまとめていきます。

統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント(IPPM)研究会

旧来のEVM研究会から、統合プロジェクト・パフォーマンス・
マネジメント(IPPM)研究会に改称し、EVMなどを中核手段
とした総合的なパフォーマンス・マネジメントを調査研究す
る活動に一新しました。

本研究会の研究目標は、
「的確な科学的パフォー
マンス情報の提供により、
プロジェクト・マネジャーと
チームの戦略策定と意思決
定のマネジメント能力を高
める統合的技法体系の確立



フォーラム2019での発表

を目指す」ことです。その趣旨に沿って、アード・バリュー・
マネジメント(EVM)、その派生手法アード・スケジュール
(ES)および、ネットワーク・スケジューリングを中核手段と
したパフォーマンス・マネジメント手法に関連する多数の海
外論文を翻訳して定例会で解説し、議論しています。その成
果は、毎年日本フォーラムで発表しているほか、関西ラン
チ定量的PM事例研究会メンバーにも紹介、共有しました。

数年前から、パフォーマンス・マネジメントにAI(人工知能)
を取り込む研究を続けており、さらに2020年度からはPMI
の新たな基本標準「EVM標準」の翻訳研究に着手し、双方と
も今後の日本フォーラムで発表する予定です。

ポートフォリオ/プログラム研究会

2019年は、2018年に続き、PgMP®資格取得セミナーの総集編
の開催、2017年に改訂されたポートフォリオマネジメント標準
第4版の翻訳、PFM/PGM第4版セミナーの実施準備を目標
に活動しました。

PgMP®資格取得セミナーは2020年に3回開催する予定で
す。また、ポートフォリオマネジメント標準第4版の翻訳
では、パイロット・プロジェクトとして他標準などの翻訳
に先駆けてクラウド型翻訳支援ツール「Memsources」を利用
し、その有効性を確認することができました。また、日本
フォーラムでの3件の発表のほか、海外動向調査フィー
ドバックセミナー(北
米大会2018参加報告)
で2回、法人スポン
サー連絡会での発表2
件などで当研究会の
知見をアピールす
ることができました。



2019年6月京都 八瀬での合宿

PMタレントコンピテンシー研究会

ショートケースメソッド・ワークショップ等による人格コンピ
テンシー育成や、タレントトライアングルやDXに見る新しいPM
の役割とコンピテンシーを探求し、PMCDF第3版の日本語訳
の完了とその普及を促進することを目標としています。

当研究会ではPMCDF第3版の翻訳を実施しており、日本
語版発刊まで秒読みとなっています。また日本フォーラム
で、『ショートケースメソッド・ワークショップによるPM
コンピテンシーの育成実践』および『デジタル時代に必要
な新たなPMコンピテンシー』として2編を発表し、全部
会内でアンケート評
価の1位と2位を獲
得しました。こうした
刺激にあふれた多才
で多様なメンバーと
楽しく研究する場が
ここにはあります。
是非覗いてみて
ください。

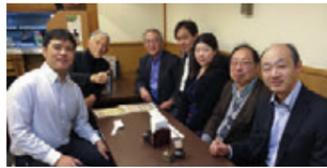


研究会合宿の集合写真

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM 標準を中心に組織的プロジェクトマネジメント (OPM) の方法論やさまざまな組織論を研究し、日本の組織へのベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しました。

2018年に発行されたOPM標準の日本語版出版に向けて翻訳作業を実施しました。2020年の出版を目指しています。日本フォーラムでは、新OPM標準の概要と組織変革に関する講演を行いました。毎月の定例会では、OPMに限らず組織のアジリティや組織変革、デジタルトランスフォーメーションなど、組織に関わる幅広いテーマで議論を行い、メンバー間の知見を高めています。



定例会の後の交流会

リスク・マネジメント研究会

日本フォーラムに向けて、リスク・マネジメントに関する研究を通して新しい価値を創造し発表すると共に、研究会メンバーの世代間コミュニケーションを活性化させ、個々の達成感/充実感の醸成に寄与することを目標に活動しました。

2019年の日本フォーラムでは、ベイズ推定をリスク・マネジメントに活用出来ないかというチャレンジングな課題に挑戦し、その検討結果を発表しました。また、モンテカルロ法に依存しない全体リスクの定量化/マネジメントに関する新しい提言を行いました。さらに、PM自身の権力に起因するPMが気づかないリスクに着目し、対応策を整理し発表しました。秋の合宿では次年度の日本フォーラムでの発表に向けて、研究活動を開始しました。



秋の合宿でのディスカッション風景

PMO 研究会

国内企業/団体におけるPMOのあるべき姿や実施している各取組に関する研究/情報発信を行い、日本でのPMOの発展/プレゼンス向上を目的としています。2019年度は5つあるWG活動の活性化を目標に活動しました。

2009年度の「戦略的PMO」発刊を契機に発足した当研究会も10周年を迎えました。2019年度は、40名超のメンバーが5つのWG (PMO事例・実践研究、製造業PMO、海外PMO、アジャイルPMO、デジタルトランスフォーメーションPMO)の、それぞれ関心あるテーマに参加し、各WG別に月例会やフォーラム発表、海外オンラインカンファレンス出展といった活動を実施しました。



月例会の様子

ここ数年、海外の先進的なPMO事例をもとにPMOの振る舞いを考えるテーマが増えています。今後も日本のPMOのあるべき姿を探求していきます。

PM ツール研究会

プロジェクトマネジメントのツールと技法をみんなでワイワイガヤガヤと研究しています。2019年は「成功するプロジェクトは関係者全員の幸せが呼び寄せる」をコンセプトに開発したナレッジベースEMAを深掘しました。

我々の研究会は、みんなでワイワイ討議することが特徴です。いろいろな会社から、いろいろな立場の方が集まっていますので、一つのテーマを多角的に見ることが出来て、とても勉強になっています。

日本発のツールを海外に発信し、海外から共感を得たら楽しいと思いませんか？日本フォーラムでは英語で講演したところ、インドの方から共感のメッセージをいただき、情報交換を始めています。みなさまも、是非私たちにコンタクトしてください。



Skypeを利用したネットワーク会議の様子

女性PMコミュニティ WomenOBF

私たちのミッションの1つは、女性PMが安心して働けるような場をつくり、それを増やし拡げるものです。2018年と同様、2019年も一般女性PMと交流することを目標に活動しました。

前回2018年の体験を基に、2019年はワークショップを中心に参加者同士がもっと話せるような活動にすることに注力しました。

2018年ワークショップの成果物から『これがあると、女性PMが一步踏み出せること』のベスト10のほとんどが、周りの人から「・して欲しいこと」でした。

そこで、慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科の欲求連鎖WCA分析を参考にし、2019年のワークショップは「自分と他者のマトリックス」に、相手にして欲しいこと、相手にしてあげたいことを書き出しました。

一般女性PMとの交流会は、2019年8月29日(水)の夜、東京ウィメンズプラザ(表参道)の会場に16名が参集して行われました。

ワークショップでは、ワークグループの構成メンバーの共通点により、アウトプットに特徴があるという、興味深い成果が得られました。この成果物を次回2020年のイベントテーマに繋がります。



2019年8月イベント参加者

PM 教育研究会

教育分野におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を目的とし、大学・大学院へのPM講義実施を主テーマに約30名のメンバーにより活動しています。

2019年度は、大学院/学部/短期大学に対する講義を計4校に対して実施しました。グローバル化対応のため英語PM講義にも取り組んでいます。日本フォーラムでは、当研究会から1件発表しました。また、啓発活動として、ジュニア教育(仮称)へのPM展開に向けた準備活動を継続して実施しています。

プロジェクトマネジメント研究会

PMBOK®ガイドを含む諸標準の研究、現場プロジェクトへの適用貢献を目的に、2019年度も組織を越え本音で議論する場を提供し、参加者のレベルアップを図ることを目標に活動しました。

PMBOK®ガイド第6版の全般研究のほか、追加されたプロセスである「知識のマネジメント」について深掘りし、その成果を日本フォーラムで講演しました。

並行して、プロジェクトマネジメントに関して、現場の問題や悩みをぶつけ合いながら気楽に議論するコミュニティ「PM-ZEN」を今年は運営体制の見直しを図りつつ3回開催しました。缶ビール片手に、講師が出すテーマを元に組織を越えて本音で議論するというものです。詳細は下記URLをご参照下さい。

<https://pm-zen.connpass.com/>

またPMBOK®ガイド第6版に準拠した解説記事を掲載しはじめました。下記URLにて『PMBOK®ガイド』第6版紹介シリーズとして掲載していますのでご参照下さい。

<https://www.pmi-japan.org/topics/pmi1/>

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、ビジネスアナリシスの普及を図ります。2019年は、BA標準のツール研究、紹介セミナーを主軸に活動しました。

日本フォーラムでは『PMIビジネスアナリシス・ガイド』内容紹介、「ビジネスアナリシスにおけるスコープモデル」と題し、これまでの研究成果を発表しました。また、『PMIビジネスアナリシス・ガイド』日本語訳の出版に伴い、ビジネスアナリシスの普及も含め、紹介セミナーを開催しました。

定例会では、標準・ガイドを読むだけではわかりづらい部分を中心に調査・研究を続け、実践でどう活用できるか研究を深めています。



定例会の様子

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題解決の活動に適したPM手法を開発・普及することにより、社会の発展に貢献することを目的としています。2019年度はソーシャルPM手法のさらなる普及および、アクティブメンバー拡大を目標に活動しました。

今年度は、SDGsやセカンド/パラレルキャリアといった社会的テーマに対するCSV手法開発、ゲーミフィケーション適用にチャレンジしました。

ソーシャルPM手法の普及活動として、ワークショップ開催、日本フォーラムでの講演、大学向け講座開催、内閣府SDGs官民連携プラットフォームにおける分科会主催等を行いました。

また、部会主催オリエンテーション、ソーシャルPMの集い、アジャイル関連部会コラボワークショップといった外部交流活動を通じて、新規メンバーの獲得・アクティブメンバーの拡大を図りました。月例会とその後の懇親会を通して活発なコミュニケーションを行いつつ多くのプロジェクトを推進中です。



部会主催オリエンテーションの様子

アジャイル研究会

PMIの立場で、アジャイルの普及、啓発を行うことを目的とし、2019年度はこれまで継続実施してきた「アジャイルPMの意識調査」についての情報発信、PMI-ACP®勉強会の実施とともに、明治大学との共同研究、日本フォーラムでの発表や他研究会とのコラボを中心に活動しました。

第6回アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査を実施し分析内容を公開しました。PMI-ACP®勉強会は6年目に入り、合格者を2名排出しました。また、日本支部の「アクティブメンバー海外派遣」にメンバーが選出され、「PMI Global Conference」に参加。その結果をフィードバックセミナーにて2度講演しました。

日本フォーラムでは2件の発表を行い、両者とも高評価を得ました。また、PMO研究会、ソーシャル研究会などと連動したコラボ企画を計3回実施し、コラボ活動を通じた「Agile Japan サテライト」も実施しました。



他研究会とのコラボワークショップの様子

ステークホルダー研究会

プロジェクトの現場で活用できるステークホルダー・マネジメント手法を研究し、研究結果について広く情報提供することを目的に活動しています。

2018年までに実施したPMBOK®に記載されている「ツールと技法」の探求だけでなく、2019年は研究会として初めてアンケート調査を実施し、その結果を日本フォーラムで皆様に展開しました。また、PMBOK®のツール・技法には記載は無いものの、ステークホルダー・マネジメントとして有用と考えられる「影響力の法則」を研究し、フォーラムで実例を交えた発表を行いました。また、11月には研究会主催でショートセミナーも開催し好評を得ることが出来ました。

次年度以降もPMBOK®をベースにステークホルダー・マネジメントに役立つ各種の情報収集と会員の皆様への展開を行います。



PM 翻訳出版研究会

PMIが発行する実務標準や定期刊行物の翻訳や出版を通じて日本支部会員や国内PMコミュニティへ貢献することを活動目的としています。2019年度はPMBOK®ガイド建設拡張版の出版を目標に活動しました。

PMBOK®ガイド 建設拡張版の日本語化を終了し、9月から書籍として販売開始しました。

日本フォーラムでは、『PMBOK®ガイド 建設拡張版』の翻訳を通してPMI標準本の日本語化プロジェクトのあるべき姿を考えた』のタイトルにて建設拡張版を紹介しました。

雑誌翻訳活動の一環として、PMI本部で発行されているPM Network®をはじめとした出版物の記事を翻訳し、日本支部のホームページで公開しています。

2019年は11本を掲載しました。



定例会の様子

International Relations Community, IRC 研究会

本研究会は、共通の関心を持つ在日外国人と日本人PM達の交流の場で、2019年度もアクティブメンバーの拡大と月例会の活発化、海外支部との交流発展・関係強化を目標に活動しました。

2019年初頭は、マレーシアのパナンで開催されたAP-LIMへのPMI日本支部代表団参加を支援しました。3月14日にはさまざまなバックグラウンドをもつ外国人プロジェクト・マネジャーを招き、プロジェクトマネジメントの実践時に壁となる文化的要素を話し合うネットワーキングイベント

を開催しました。そのほか、メンバーが母国のフォーラムへ独自参加するなどして海外支部との交流進め、研究会自体の知見を高めています。



PMBOK® セミナー・プログラム

PMIが発行しているPMBOK®ガイドを学習する機会を提供することを目的とし、PMBOK®第6版対応セミナーを開催するものです。2019年度は新人講師のスキルアップを図りつつ、セミナーを開催することを目標に活動しました。

本プログラムで作成したオリジナルテキスト(PMBOK®セミナー テキスト PMBOK®ガイド 第6版対応)とPMBOK®ガイドを使用し、6月と10月に「PMBOK®第6版対応セミナー」を開催し、好評を得ました。

ベテランメンバーだけでなく、新人のスキルアップも図ることを目指し、レベルに合わせた入念なリハーサルを行い、個々のメンバーのインストラクション能力の伸長を図りました。

また、セミナーの講義内容を充実させるためQ&Aのレビューや最新動向を取り入れるための議論、関連標準などに関する勉強会を行いました。

PMBOK®を勉強し教えてみたいと思う方をお待ちしています。

セミナー・プログラム

セミナー、イベントの開催を通じてPMのスキルアップと人脈形成の機会提供を目的に活動しています。タレント・トライアングルのうちリーダーシップとストラテジック&ビジネスマネジメントを主なテーマとしています。

時流に合わせた旬なテーマで、さまざまな分野の第一線で活躍されている方を講師としてお招きしました。1月は「新春特別セミナー」と銘打って土曜日に開催し、幅広くビジネス・パーソンに役立つ内容で好評を得ました。新春特別セミナーおよび8回の月例セミナーでは、延べ参加人数951名、平均94.5%の高い満足度を得ました。Japan Festa 2019では2日間で10講演を企画・開催し、現地会場と同時中継を合わせ延べ参加人数728名、平均93.5%の高い満足度を得ました。継続的に質の高いセミナーを開催することで、PMI会員はじめビジネス・パーソンの方々に貢献しました。



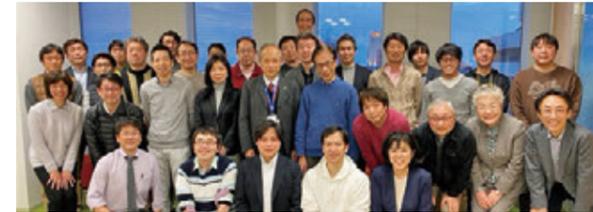
「Japan Festa 2019」の様子

関西ランチ所属支部会員による活動

関西ランチ 運営委員会

関西ランチ創立10周年にあたる2019年は、初の家族交流イベントを含む大規模記念行事や、魅力的な講師招請によるセミナーの開催を精力的に企画・推進する中で、アクティブ会員数の増加を目標に活動しました。

大阪駅前のグランフロントや阪急オフィスタワーを拠点に、研究会代表と運営委員がランチ運営の企画・検討を行っています。2019年は、関西ランチ10周年を記念した大規模セミナーや会社帰りの2時間もののセミナー等を3回開催するなど、関西地域の皆さまの知識習得機会を増やしました。また、12月の成果発表会では、初の中部ランチ会員による講演や海外コンgres参加報告、大学の教育支援などテーマも広がりを見せる中で、参加者も昨年比1.5倍に増加する等、質・量ともに充実した価値創造の場になりました。



2019年 成果発表会の様子

関西ランチ プロジェクトマネジメント実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクト・マネジャーの実践力向上を目的としています。2019年度はショートケースの作成手法の提案と新規ショートケース・ワークショップの実践を目標に活動しました。

メンバーの実体験に基づく「富士山登頂の事例」を、日本フォーラムで発表しました。この結果、聴講者から高評価を得たことにより、「PMO Symposium®2019」(米国デンバーで開催)の派遣メンバーに選出されました。

6月には、新規作成したショートケースを用いたワークショップを大阪で開催し、高い評価を得ました。また、この実績を基に『ショートケース・ワークショップ』をテーマに掲げ、地域サービス委員会と共同企画で「地域セミナー2019」を全国9都市で開催しました。このアンケート結果からは、95%以上の方からワークショップへのリピート参加を希望いただきました。



地域セミナー2019の様子

関西ランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会

当研究会では、最新の医療関連規制への対応策、医療IT開発プロジェクトの研究および、医療関係者の教育プログラム開発等の活動を行っています。

医薬品等開発の国際的ハーモナイゼーションであるICH(医薬品規制調和国際会議)のうち臨床試験の実施の基準であるICH-GCP(医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令)の改正に伴い、全ての開発プロセスにQMSの適用が義務付けられることとなりましたが、この適用に関する課題について検討し、日本フォーラムにて発表しました。



フォーラムでの発表の様子

また、アカデミックスポンサーである川崎医療福祉大学との連携で、看護領域へのPPPM、タレントトライアングルの応用検討について、12月に開催された関西ランチ成果発表会にて発表しました。

IT上流工程研究会

「プロジェクトマネジメント」、「ビジネスアナリシス」、「アーキテクチャデザイン」などの、超上流に関わる専門領域の研究を通じて、ビジネスに貢献するプロジェクトマネジメントを提言することを目標に活動しています。

関西ランチ10周年にあたる2019年度は、これまでの研究会活動を総括し、さらに次の10年に生きる提言を日本フォーラムで発表しました。また、他の研究部会やPMI以外の他団体とも積極的に交流を深めました。VUCAの時代を迎え、プロジェクトの成功にとってますますビジネスとITのパートナーシップを強化することが不可欠と言えます。それを担う役割であるプロジェクト・マネジャーの進化した姿として「戦略的プロジェクト・マネジャー」を提案しました。

定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

定量データをプロジェクトマネジメントに活用するノウハウ収集とCCPMを研究しています。2019年は、参加メンバーのプロジェクトを題材に、定量的にプロジェクトマネジメントを行う際の課題や対策などについて情報共有しました。

日本フォーラムでは「テクニカルコンサルタントの活用とプロジェクトの傾向」、関西ランチ成果発表会では「ユニバーサルスタジオジャパンに必要な定量的プロジェクト管理について」と題して発表しました。また、情報共有と事例発表を目的とした合同事例共有会を毎月開催し、『真の学びは対話を通じた相互理解や気付きにある』をコンセプトに、他の研究会メンバーの参加も得て多様な意見やディスカッションを通じて新たな価値観や気付きを得ることが出来ました。



関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

「関西マインドで世界をワクワク」をビジョンに掲げて活動を行っています。2019年度はイノベーション・プロセスに関する考察や、これから求められる「起承転結人財」の研究を行いました。

毎月の定例会と秋合宿で、ビジネス・ストラテジーやリーダーシップをテーマに研究活動を行っています。

世の中では人類にとってこれまでにない速度で価値観の変化が起こっていることを踏まえ、その変化への対応のために必要な戦略構築力と行動原則の探求を行っています。

と言うと難しそうに聞こえるかもしれませんが、各々がやりたいことについて和気あいあいと対話を深めています。

また毎月無償の公開イベントを企画・実施しており、読書会ワークショップなども行っていますのでお気軽にお立ち寄りください。



2019年 奈良合宿の様子

中部ブランチ所属支部会員による活動

中部ブランチ 運営委員会

中部ブランチの運営全体を統括しています。2019年度は中部ブランチの広報活動、PMサロン/セミナー部会でのイベント企画とその運営支援、地域ソーシャルマネジメント研究会の継続的な支援を目標に活動しました。

運営委員会は月1回のペースで会議を開催しています。会議は集合形式を基本に、web会議も併用し遠隔からの参加にも対応しています。主なテーマはセミナー企画、研究会活動をはじめとした情報の共有です。毎回、前月の活動振り返り、当月の活動計画、TODO事項の状況確認などPDCAサイクルで回し、活動の活性化を図っています。会議終了後には懇親会も行いコミュニケーションの充実を図っています。

活動の成果は日本支部のホームページの中部ブランチ・ニュース、Facebookページにて情報発信しています。



運営委員会後の懇親会の様子

中部ブランチ PM サロン/セミナー

中部地区でのプロジェクトマネジメントのノウハウの共有と人材育成を目的として、特別セミナーを開催し、また参加者主体での意見交換の場としてPMサロンを企画・運営しています。

2019年の特別セミナーは「大規模プロジェクトでの成功事例」、「インプロ(即興演劇)を活用した行動力向上」の2テーマ

マを中部独自企画として開催することにも、首都圏で開催した月例セミナーを横展開し、計3回のセミナーを開催。いずれも高い評価を得ました。これによりさまざまな視点から中部地域在勤の方々のマネジメント・ノウハウの向上に寄与することができました。さらにPMサロンではベテランのプロマネを囲んで若手向け意見交換会も開催し、若手プロマネの悩み解消やスキルの底上げに寄与することができました。



PMサロンでの意見交換会の様子

中部ブランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

地域の活性化や社会的な課題の解決に向けプロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2019年度は先行モデル活動体へのミニマムなソーシャルマネジメント支援を目標に活動しました。

豊田市に対して、2週間の超短期課題解決手法によるサイクルで定期訪問を実施し、小さな成功を積み重ねたことで、先方と意思統一を図ることができました。そこでは主要テーマを『とよたSDGsパートナー会員制度』の立ち上げ支援に絞りました。ビジネスモデルの可視化などのデザイン思考などの手法も活用しながら、問題点の解決に向けた分析や検討を行い立ち上げに貢献、「実践」を通じて手ごたえを感じるすることができました。



とよたSDGsパートナー会員登録式の様子

法人スポンサー社員による活動

人材育成 スタディ・グループ

プロジェクト・マネジャーに必要な人間力の向上に焦点を当て、議論・検討を重ねています。2019年度は、現場で発生し得るプロジェクト課題の解決に役立つ実践ガイドの作成を目指して活動しました。

現場のプロジェクト・マネジャーが困っている、まさにその時、困難を打開するヒントになるような手引書『プロジェクト・マネジャーが困ったときの解決ガイド(仮称)』を鋭意作成中です。ストーリー仕立てで、読者が「あるある」と感じ、直面する困った場面で自ら主体的に「行動しよう」という、やる気を生むガイドです。

今年度の成果として、困った場面での具体的な行動がわかる「べし・べからず集」をまとめました。



2019年度合宿の集合写真

若手PM育成スタディ・グループ

現場で使えるより実践的な方法、ツールを生み出し、日本の若手PM育成に貢献することを目標に①PM候補者選定ポイント・方法、②PMのモチベーション維持の方法、③若手PMを育成する方法の3つの観点・テーマに分け検討をしました。

活動を開始して丸10年となった2019年の活動目標は、テーマ③の検討を継続しそのまとめとしてフォーラム発表を行うこと、新たに第4のテーマを決めて検討を開始することでした。

その成果として、テーマ③「若手PM育成方法の「気付き」と「学び」」をフォーラムで発表しました。今後は、この10年のプロジェクトにまつわる変化(Agile、AI、Dxなど)を踏まえ、再度テーマ①、②を見直す活動を行うこととしています。

ケースメソッドスタディ・グループ

我々はケースメソッド型教育に注目しています。2019年度は各メンバーからケースを収集し、それを題材にスタディ・グループ内でケースメソッドの実体験を実施し、実戦で使えるケースの作成ノウハウを収集しました。

2019年度からメンバーを一新し、活動を実施中です。主な成果としては、2018年度の成果を日本フォーラムにて報告、メンバー各社より20ケースを収集、収集したケースよりケースメソッドの実体験を3ケース実施しました。

現在、複数のケースを見直してケースのノウハウ集作成を目指し活動中です。



定例会後の様子

PMコミュニティスタディ・グループ

「PMコミュニティがPMを変える」をテーマに、魅力的なPMコミュニティの作り方を研究しました。2019年はその結果をとりまとめ、法人スポンサー企業にリリースすることを目標に活動しました。

PMコミュニティの立上げ、運営の観点で整理したマインドマップ(図表)を作成し、法人スポンサー連絡会で報告しました。これをPMコミュニティスタディ・グループの成果物として法人スポンサー企業にリリースし、2019年3月末にて活動を終了しました。

COLUMN



ケースメソッドスタディ・グループ ■ 吉村 義弘

ケースメソッドスタディ・グループは2017年10月より活動を開始し3年目に突入しました。私は、自社PM育成に対しケースメソッドの効果的な適用を検討するため発足当初から参画しています。この活動を通じて参加各社のいろいろなケースによる討議を行うことで一朝一夕では積めない多くの経験を疑似的にでも体験し、自らの経験値も少し上がったのではないかと考えています。

活動は、和気あいあいとした雰囲気である毎に親睦会が開かれ、月1回実施している定例会では活発な意見交換があり、大変有意義な活動となっています。興味を持たれたら、まずはオブザーバーとしてぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。

部会活動

部会横断活動

各部会が培ったノウハウを共有し、新しい価値を創造するための部会横断的な活動が活発化しています。「リーダーシップミーティング(2015年～)」、「部会リーダー交流会(2017年～)」に加え、2019年は「アジャイル関連部会連携」と「SDGsスタートアップ研究分科会」が動きだしました。

リーダーシップミーティング2019

2019年9月7日(土)と8日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場に、日本支部の各部会リーダーやアクティブメンバー、会長・理事・顧問、PMIアジア・パシフィックからの参加者総勢70名を一堂に会して「リーダーシップミーティングLM2019」を開催しました。

今年で5回目になるこの会議は、戦略委員会のひとつ、PMコミュニティ活性化委員会が中心となってボランティア・チーム「LM2019運営チーム」を結成して企画、運営されたものです。また、開催に向けては「LM2019プロジェクト憲章」を作成した上でプロジェクト・マネジャーを任命し、目的やPMの権限・責務を明確にするなど、LM2019そのものをプロジェクトとしてマネジメントする、PMIらしい運営が行われました。参加者は各部会(委員会、研究会、ブランチ、プログラム)から、リーダーやアクティブメンバーが2名ずつ派遣され、今後のPMI本部や日本支部のビジョンと方向性、施策などを共有し、参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行うことで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化することを目的としています。

1日目の会議では、PMIアジア・パシフィックからのゲスト Siti Rozianti氏より、50周年を迎えたPMIの今後の展望やPMP試験改定などの最新状況が「PMI Global Update」と題する英語のプレゼンテーションで報告され、それに続き渡辺哲也理事より「PMI EMEA LIM & Congress」の参加報告が行われました。

その後、片江副会長、池田理事からの日本支部 中期計画策定プロジェクトの検討内容の説明を受け、6グループ(女性PM、ジュニアPM、PM、シニアPM、シニア・アフター



PM、法人)に分かれて「ミッションとビジョン」、「セグメントと価値」についてグループ討議を行いました。各グループからは討議結果が紹介され、その結果は2020年からの次期中期計画に反映されることとなります。

1日目の最後は、斉藤理事による組織拡大委員会の活動紹介と、意外に知らない日本支部会員の活動状況が「あるあるクイズ形式」で説明され和やかなプレゼンテーションとなりました。

2日目は、NPO法人CFファクトリーの呉講師による「いきいきと活気あふれる団体になるためのコミュニティマネジメント」という題目でワークショップが行われました。8グループに分かれて自部会の活動と他部会を比較して、課題認識と解決策を議論。締めくくりに各グループのプレゼンテーションが行われ、制限時間内のプレゼンテーション力が最も優れていた「Aグループ(組織拡大委、コミュニティ活性化委、PMBOK®セミナーPgm、ソーシャルPM研)」に最優秀賞が贈られました。解散式では、端山副会長から全体講評があり、全員による記念撮影で幕を閉じました。

これらの議論は2020年度の各部会の活動計画に反映されるとともにミッション委員会に引き継がれ中期計画遂行のための材料になります。リーダーシップミーティングは、日本支部のPMコミュニティをより一層活性化させるための毎年恒例の重要イベントとして、今後も発展していくことが期待されています。

部会リーダー交流会

日本支部は会員の皆さまに、研鑽の場、情報交換の場、PM同士の交流の場、日頃の研究成果の発表や疑問の解消の場として、各種研究会(現在17種類)やランチ(関西、中部)およびプログラム(PMBOK®セミナー、セミナープログラム)といった「部会活動」を支援しています。部会リーダー交流会は、これら部会間のリーダーが一堂に会して相互にコミュニケーション



交流会の様子

する機会を提供するものです。

2019年度は四半期毎に4回(3月、6月、10月、12月)開催され、各部会活動状況の紹介や、日本支部からの最新情報の共有および部会リーダー同士の交流(ネットワーキング)が行われました。2019年度は、日本支部価値向上のための

アジャイル関連部会連携

アジャイルを研究中である3部会(アジャイル研、ソーシャルPM研、PMO研)のメンバーを中心に、研究テーマ軸での横のつながりと親睦を目的としてメンバーが自主的に立ち上げた活動です。

昨今の米国PMIでのアジャイルへの取組の本格化を受けて、我々も負けじと2019年5月に活動を開始しました。

2019年度の実績は、アジャイル関連部会(5月30日、7月3日)、「Agile Japan PMI日本支部サテライト(11月9日)」という計3回のイベント開催です。実際のイベントにおいてはOST(オープン・スペース・テクノロジー)等の手法を使って、参加者が関心のあることを自由にグループディスカッションしてもらい、それら



Agile Japan PMI日本支部サテライトイベント参加者

SDGsスタートアップ研究分科会

日本支部は2018年度より、SDGs活動に対するプロジェクトマネジメント手法の適用可能性を探るための調査研究を行っています。現在の中心的活動は内閣府「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」での調査研究です。本プラットフォームは2019年9月時点で992団体が参加し、SDGsの国内実施を促進し地方創生につなげるための活動が行われています。

2019年度はその段階を一步進め、当支部の提案により

方向性と部会活動の現状を確認する場としても活用され、LM2019における協議との関連も意識した運営が行われました。部会間のコラボレーションのきっかけ作りや各部会のアクティブメンバー増加をはかることなど、部会活動の活性化を支援する活動として2020年度も継続します。

を実践していく上で取り組むべき課題を明確にするといったアジャイルアプローチを体験しました。参加者の反応は「面白かった」、「参考になった」など前向きな内容でした。

2020年も引き続き、こういったイベント開催を柱に、日本でのアジャイル普及に向けて楽しく活動していきます。



分科会の様子



分科会の様子

各種セミナー

各種セミナー

日本支部がご提供するセミナーには、当該講師の特性から大きく2種類あります。

- ① 専門分野のエキスパートである講師を外務から招請して行うもの
- ② 十分な経験を有する理事、研究成果を紹介・発表する部会メンバーが行うもの

外部講師招請によるもの

月例セミナー

セミナー・プログラムのメンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、現場PMの方々が興味を持つ旬のテーマを選定し、その分野で活躍されている方に講演をお願いしています。2019年も、ブロックチェーン活用による農業革命、上司を味方にし部下を思い通りに動かすためのコミュニケーションスキル、マネジメントを変えるOODAループなど多岐にわたるテーマで各界の専門家に登壇いただき好評いただいています。

2019年 月例セミナー

講演月	テーマ	講演者	所属
新春特別セミナー	ポジティブ心理学的「心の健康メソッド」	山本 真己 氏	株式会社フィット/代表取締役
	スタンフォード式「疲労回復メソッド」	山田 知生 氏	スタンフォード大学スポーツ医局アソシエイトディレクター
2月度	宮崎県綾町が挑むブロックチェーンによる農業革命!!	鈴木 淳一 氏	株式会社電通国際情報サービス
3月度	上司と部下を自由に動かすマネジメント ～ミドルマネジャーが身に付けるべきヒューマンスキルとは～	木村 尚敏 氏	株式会社経営共創基盤 取締役マネージングディレクター兼 同社上海執行董事
4月度	『知らないからできる』から学ぶ ゆとりを創りながら生産性をあげる「働き方改革」	尾関 克己 氏	ゴールドラット・コンサルティング・ジャパン パートナー
5月度	連続起業体験記 倒産寸前から3年で上場、そして二度目の起業へ	小林 正樹 氏	株式会社イルカ 創業者/代表取締役
6月度	変革プロジェクトとセルフマネジメント ～北米型システム投資と禅を巡る話～	中野 仁 氏	クックパッド コーポレートエンジニアリング部 部長 / AnityA 代表取締役
8月度	日本企業停滞の元凶：PDCA.日本再興の処方箋：OODAループ	入江 仁 氏	アイ&カンパニー・ジャパン代表
9月度	困ったときのPMコミュニケーションスキル ～いかにプロジェクトメンバーを動かすことができるか～	野原 秀樹 氏	株式会社MANY ABILITIES 代表取締役
12月度	日本人が誰も知らない日本の労働生産性が低い理由 ～明治維新以来のLeanという第二の黒船～	高木 徹 氏	株式会社豊田 マネジメント研究所 副社長

2017年まではほぼ首都圏で開催していましたが、「地域セミナー」を除く)が、2018年以降は関西 brunch や中部 brunch が主催するセミナーもより活発化し、地域の皆様の自己研鑽に貢献しています。



月例セミナーの様子

アジャイルプロジェクトマネジメント研修

2019年もアジャイルプロジェクトマネジメント関連研修を8回開催しました。「アジャイルプロジェクトマネジメント基礎」では、アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を合わせています。「アジャイルプロジェクトスタートアップ入門」では、アジャイルプロジェクトにおけるビジョニングや見積りと計画について、ワークショップ中心で実施しました。アジャイルの基礎知識を理解した後の「アジャイル実践セミナー」では、国内外で採用例の多いスクラムのプロセスをワークショップで体験し実践力を身に付けていただきました。

アジャイルは「PMBOK®ガイド」第6版でその要素が多く取り入れられており、プロジェクトマネジメントにおける必須のスキルとなっています。



セミナーの様子

デザイン思考セミナー

2019年は「デザイン思考基礎」を2回、「デザイン思考実践(2日間)」を4回、「デザイン思考応用(2日間)」を1回開催し、いずれも高い評価を得ました。「基礎コース」は、まず顧客経験とは何か、なぜ重要かといった基本的考え方を紹介し、一部の技法をワークショップ形式で体験するものです。2日間の「実践コース」では、顧客経験の理解を通じて誰も気づいていなかった解釈(インサイト)を定義し、それを基にアイデアを出して統合する実践的手法をワークショップで体得するものです。2日間の「応用コース」では、ビジネスモデルを構築した上で自組織がイノベーション企業に変革するシナリオを描くことを学ぶものです。



セミナーの様子

ファシリテーション型リーダーシップ基礎セミナー

ファシリテーションは、自らがチームの問題解決に深く入り込むのではなく、チームメンバーの力を引き出し、チームが問題解決することを支援・促進する、近年注目されているリーダーの必須スキルです。

会議運営時のさまざまな困った状況(話の長い人、逆に話さない人、発散しすぎた議論、逆に発想が広がらない議論、対立・葛藤などコンフリクトの発生や時間の管理)を適切にファシリテーターとしてさばけるよう、ワークショップを通して実践的に習得いただきました。2018年に続き2019年も計4回開催しました。2020年も定期コースとして開催します。



ワークショップの様子

顧客関係構築および顧客満足度アップ ワークショップ

顧客関係の構築、顧客満足度アップの重責を担うPMの育成は喫緊の課題です。2018年の法人スポンサーアンケートでは実に8割もの企業が最重要課題であると捉えています。

本ワークショップでは、①顧客は誰でどの程度満足し何を望んでいるか?について多面的に捉える方法 ②顧客の要望に対して自社ならではのバリューを認識する手法 ③顧客との良好な関係構築のための手法 ④顧客からの要求の本質についてヒアリング、理解してまとめる方法の4つを理論・実践の両面から学んでいただき、高評価を得ました。



関西 brunch 主催セミナー

関西は首都圏に比べ日本支部主催のセミナーが少なく、会員サービスの地域格差が課題となっていました。東京で開催した月例セミナーの人気講師を招聘し、3年前から「関西セミナー」をスタートしました。当初は年1回開催でしたが、2019年は年3回開催するまでになりました。また、テーマもタレントトライアングルの戦略、リーダーシップを重視し、実績ある起業家等を関西 brunch 独自で積極的にリサーチし講演内容も広がりを見せ、会員だけでなく多くの非会員の方々にも参加いただいています。



7月5日 関西セミナーの様子

各種セミナー

2019年 関西セミナー

講演月	テーマ	講演者	所属
7月	抵抗勢力との向き合い方 ～働き方改革、業務改革を 阻む最大の壁を乗り越えろ～	榊巻 亮 氏	ケンブリッジ・テクノ ロジー・パートナーズ 株式会社 デイ レクター
9月	0から1を生み出すスタート アップ起業 ～訪日外国人旅行者向け観 光プラットフォームサービス 「WAmazing」～	加藤 史子 氏	WAmazing株式会 社 CEO
12月	日本発祥の置き薬がアフリカ を救う? ～江戸時代の仕組みからの 変革の挑戦～	町井 恵理 氏	AfriMedico 代表 理事

中部ランチ主催セミナー

中部ランチでも関西と同様、3年前から東京で実施している月例セミナーの人気講師を招聘し、「中部セミナー」をスタートしました。地域性を考慮したテーマを選定し、会員だけでなく非会員の方々にも有益な事例が学べるよう工夫しています。年3回ずつ継続実施していることもあり地域の皆様に認知され、参加者も安定して集まるようになりました。



4月10日 中部セミナーの様子

2019年 中部セミナー

講演日	テーマ	講演者	所属
4月	大規模プロジェクトマネジメント成功のカギ ～JALシステム刷新プロ ジェクトが日経「IT AWARD 2018」を受賞できた理由～	宮下 律江 氏	株式会社エターナ リア 代表
6月	これからの時代に求められる インプロのチカラ ～創造・行動・調整、想定外 の出来事に対応するチカラ を見つめる～	野原 秀樹 氏	株式会社MANY ABILITIES 代表取 締役
9月	部下を伸ばし、自らも成長す る働き方改革 ～私の痛い経験から～	飛田甲次郎 氏	ゴールドラット・ジャ パン パートナー

オンラインセミナー

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指す多くの方々に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けない機会を提供するもので、ご自宅PCやモバイル機器で受講いただくことを想定したプログラムです。コンテンツは月例セミナーを中心にJapan Festaでの講演など外部からの招聘講師によるものとなっています。

オンライン・セミナーのお知らせ	
発行中	オンライン・セミナー 「最新! 2019年11月 働き方改革を促進するためのスキルアップ」 オンラインセミナーを初めて利用される方は必ずお読みください
発行中	オンライン・セミナー 2020年1月 働き方改革セミナー「2020年 働き方改革を推進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 2.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0 Strategic 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0 Strategic 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0
発行中	オンライン・セミナー 「働き方改革を促進するためのスキルアップ」 PMP/PgMP PDU Leadership 1.0

ホームページでのコンテンツ案内



オンラインセミナーの画面例

理事・部会メンバーが講師を務めるもの

PMBOK® 第6版対応セミナー

より多くの皆様に PMBOK®ガイドの概要を知っていただくため、PMBOK®セミナープログラムのメンバーが講師となり、2日間コースで2019年6月、10月に東京でセミナーを開催しました。

本セミナーはPMBOK®ガイドの全体像を理解したい方、PMBOK®ガイドをプロジェクトマネジメントのツールとして活用したい方々向けに、メンバーが作成した「PMBOK®セミナー副読本第6版」を元に「PMBOK®ガイド第6版日本語版」を随時参照しながら第1章から第13章のすべてについてQ & Aを交えながら解説するもので、今回も大変好評をいただきました。



リスクマネジメント研究会セミナー

2019年度も引き続き『転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスクマネジメント』をテーマに、実務でリスクマネジメントを効果的に実施するために実践的な技術を身につけたい、組織への導入を図りたい、リスク分析を行いたいという方々向けに、2019年11月にセミナーを開催しました。

本セミナーは、PMBOK®を中心とした各リスクマネジメントプロセスを説明した後、IT系のケースシナリオを例にワークショップ形式でグループ演習を行うものです。

リスクマネジメントを実施する想定で一連の流れの中で仮想的にリスクマネジメントを体験学習していただきました。



ソーシャルPM実践ワークショップ

2018年はデザイン思考、アジャイル・マネジメント、ステークホルダー・マネジメント、ビジネスモデル・デザイン、ベネフィット・マネジメント、ポートフォリオマネジメントの6コースをソーシャルの観点からまとめてワークショップを開催していましたが、2019年は3つに集約した上でCSVとSDGsを新たにコースに組み込みました。3回のワークショップの参加者は延べ63名で、講義とワークショップを通じて多くのことを伝えることができ、アンケート結果も「役立つ」との評価が大半でした。何人かの方々その後日本支部会員となられたりSPM研究会に入会されたりしました。



ワークショップの様子

ショートセミナー ステークホルダー・エンゲージメントの勘所

2019年1月に行ったステークホルダー・マネジメント実態調査から、会員の方々から「権力が及ばないステークホルダーに対する具体的なツールと技法」を要望されていることがわかりました。これを受けて有効な手段を研究したところ「影響力の法則」という書籍の内容が有効であると判断し、日本フォーラムで紹介しました。

これを受け、本セミナーでは、「影響力の法則」をさらに有効に使っていただけるよう、簡単な問題プロジェクトを提示し参加者の方々にショート・ワークショップ形式で、意見を交換しあい発表していただきました。

アンケート結果も好評だったため、来年度も実施する予定です。



ワークショップの様子

『PMIビジネスアナリシス・ガイド』紹介セミナー

『PMIビジネスアナリシス・ガイド』初版の発刊に伴い、ビジネスアナリシス研究会メンバーにて、9月・10月は東京で、11月は大阪で計3回の「PMIビジネスアナリシス・ガイド紹介セミナー」を開催しました。

本セミナーでは『PMIビジネスアナリシス・ガイド』の全体解説に加え、ガイドに掲載されているツールと技法を短いケースを用いて疑似体験いただきました。グループで協議し解決策を作成することによりビジネスアナリシスのプロジェクト・マネジャーの実践力向上を図れ、参加者からも高い満足度・評価をいただきました。



あかね実践工房 2019 の様子

地域セミナー（全国9か所）

戦略委員会のひとつである地域サービス委員会では、首都圏以外の地域在住の会員の方々へのサービス向上、地域コミュニティ活性化を目標に活動しています。

2019年も全国9ヶ所でセミナーを開催し、延べ150人以上の方々に参加いただきました。今回はより深く学ぶことにつながるからショートケースメソッドによるワークショップ方式を採用しました。

関西ランチPM実践研あかね実践工房と地域サービス委員会が講師となり実践的なトレーニングの機会や有益な情報を地域の皆様にご提供できたと考えています。今後も地域の皆さまのご期待に応えてまいります。



地域セミナーの様子



セミナーの様子

関西PM実践 ワークショップ

PM実践ワークショップは、プロジェクトの実践事例から作成されたケースを疑似体験し、ケースから抽出した問題点をグループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップで、今回が通算11回目の開催となります。

関西ランチが発足した2010年よりPM実践研究会が実施しているもので、2019年は、あかね実践工房「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ」を6月に大阪で開催し、これが2019年度に全国9地域で展開された「地域セミナー」のテンプレートとなりました。毎回、参加者からは高い満足度評価をいただいています。

COLUMN



関西ランチ PM実践研究会 ■ 橋本 欽司

2018年に東京のセミナープログラムから関西ランチPM実践研究会にオファーがあり、PMI Japan Festa 2018(横浜開催)でショートケースで学ぶワークショップを実施し好評を得ました。これを受けて2019年の春には、地域サービス委員会から「ワークショップを全国各地で実施したい」との話があり、コラボ開催が決定しました。

研究会メンバーで講師を分担しながらも本業を抱えつつ全国9都市を巡るセミナーの開催は苦勞も多かったのですが、参加者アンケートでは95%以上の方がリピート参加を希望されているとの結果を得て感謝しています。これからもPM仲間の声に応えるべく活動を続けて行きます。

ホームページ

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、2019年は約11万件/月のアクセスがありました。

各種セミナーの告知・エントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、ニュースレターの掲載、海外コンファレンス出張やセミナーの開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー組織向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。



ニュースレター

ニュースレターは、日本支部のイベント報告のほか、理事紹介、部会活動紹介、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ（PMI関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他）などを、pdf雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

Japan Festaで講演いただいた方の具体的講演内容や人となり、30にも上る部会活動・法人スポンサー スタディー・グループの活動状況など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。



メールマガジン

日本支部のメールマガジンは、約1万人（PMP®資格保持者や本部・支部会員など、日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方）、110社にのぼる法人スポンサーの窓口ご担当の方々に対して情報を配信するサービスです。

各種セミナーやイベントの開催、新刊書籍の割引販売、PMP試験の変更、翻訳記事掲載などのさまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。

頻度は、基本的に2回/月、研修・セミナーなど個別の案内は2〜3回/月のペースとなっています。たとえば、「月例セミナーには当メールマガジンを受け取ったから参加した」という方が毎回半数おいでです。日本支部会員、プロジェクト・マネジャー、法人スポンサー社員の方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。



Facebook

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

日本支部Webサイトに掲示された「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI本部やPMI Educational Foundationから発信される情報もご紹介しています。

2019年も利用者の皆さんの「いいね！」でプロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。



出版書籍

日本支部のオンライン・ブックストアでは、『PMI ビジネスアナリシス・ガイド』や『PMBOK®ガイド建設拡張版』をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。

URL: <https://www.pmi-japan.org/bookstore/>

PMI ビジネスアナリシス・ガイド



著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行年：2019年

近年、ビジネスアナリシスの領域が拡大し、ポートフォリオ、プログラム、およびプロジェクトにとって重要なリーダーシップ・コンピテンシーとみなされることが多くなっています。その結果、熟練したビジネスアナリシス専門家への需要が増加し続けています。この本は、ビジネスアナリシスの実務慣行を成長させるための基盤を提供します。あらゆる業界のあらゆる組織に、そして一連のプロジェクト実現方法にわたって適用可能です。ビジネスアナリシスの成熟度を向上させ、プロジェクトの成功率に直接影響を与える適切な基盤を提供します。

PMBOK®ガイド建設拡張版



著者：PMI
発行：PMI日本支部
発行年：2019年

『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド』(『PMBOK®ガイド』)はほとんどのプロジェクトに適用可能な一般化したプロジェクトマネジメントのガイドを提供します。『建設拡張版』は建設プロジェクトのマネジメントの効率と効果の改善を探求するもので、建設業界に適用できるツール、技法、手順、プロセス、および教訓を含んでいます。

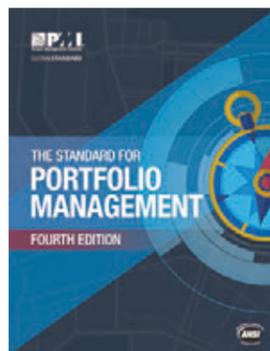
現在翻訳中の PMI 標準本

プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク 第3版



発行時期：2020年3月（予定）

ポートフォリオマネジメント標準 第4版



発行時期：2020年第4四半期（予定）

組織のプロジェクトマネジメント (OPM) 標準



発行時期：2020年7月（予定）

貸借対照表

令和1年12月31日現在
(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	124,328,014	【流動負債】	34,094,421
現金及び預金	96,863,030	買掛金	6,499,636
売掛金	12,676,217	未払費用	4,256,975
商品	7,241,195	未払法人税等	70,000
貯蔵品	655,337	未払消費税等	238,600
前払費用	529,565	前受金	21,497,270
未収入金	6,362,670	預り金	1,531,940
【固定資産】	5,725,001	負債の部合計	34,094,421
【有形固定資産】	888,961	純資産の部	
建物附属設備	513,955	【株主資本】	95,958,594
工具器具備品	375,006	資本金	55,000,000
【無形固定資産】	2,134,600	利益剰余金	40,958,594
電話加入権	37,600	その他利益剰余金	40,958,594
ソフトウェア	2,097,000	繰越利益剰余金	40,958,594
【投資その他の資産】	2,701,440	純資産の部合計	95,958,594
敷金	2,701,440	負債及び純資産合計	130,053,015
資産の部合計	130,053,015		

損益計算書

自 平成31年 1月 1日
至 令和 1年12月31日
(単位：円)

科目	金額	
【売上高】		
売上高	132,288,786	
会費収入	26,881,618	
売上高合計		159,170,404
【売上原価】		
期首商品棚卸高	7,350,687	
書籍関連原価	22,292,069	
セミナー関連原価	40,333,373	
その他原価	8,740,538	
合計	78,716,667	
期末商品棚卸高	8,591,130	
売上原価		70,125,537
売上総利益		89,044,867
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		88,921,979
営業利益		122,888
【営業外収益】		
受取利息	993	
雑収入	167,090	
営業外収益合計		168,083
経常利益		290,971
【特別損失】		
前期損益修正損	668,000	
寄付金(特別損失)	511,375	
特別損失合計		1,179,375
税引前当期純損失		888,404
法人税・住民税及び事業税		70,151
当期純損失		958,555

2019年度 理事・監事名簿

2019年12月31日現在

名前	役職	所属
奥澤 薫	会長	KOLABO 代表
浦田 有佳里	副会長	TIS株式会社 テクノロジー&イノベーション本部 Smart Society 推進室長 兼 戦略技術センター副センター長
片江 有利	副会長	株式会社システムコストマネジメント 顧問
端山 毅	副会長	株式会社NTTデータ 技術革新統括本部 テクノロジーストラテジスト
麻生 重樹	組織拡大担当	日本電気株式会社
池田 修一	ミッション担当	株式会社ポジティブ・ラーニング 代表取締役社長
伊藤 衡	教育国際化担当	小山工業高等専門学校専攻科 非常勤講師
井上 雅裕	教育国際化担当	芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授
岩岡 泰夫	ミッション担当	株式会社国際開発センター 研究顧問
木南 浩司	地域サービス担当	株式会社マネジメントソリューションズ マネジメントコンサルティングディレクター
斉藤 学	組織拡大担当	スカイライト コンサルティング株式会社 ソーシャルイノベーションラボ シニアマネージャー
鈴木 安而	標準推進担当	PMアソシエイツ株式会社 代表取締役
武上 弥尋	国際関係担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 データサイエンス&AIサービス Certified Executive Project Manager
中嶋 秀隆	標準推進担当	プラネット株式会社 代表取締役社長
福本 伸昭	PMコミュニティ活性化担当	株式会社JTB情報システム 取締役常務執行役員
三嶋 良武	財政担当	株式会社三菱総合研究所 社会ICT事業本部 シニアITアーキテクト
水井 悦子	組織拡大担当	エンパワー・コンサルティング株式会社 代表取締役
森田 公至	PMコミュニティ活性化担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 GTS事業本部 保険デリバリー
除村 健俊	教育国際化担当	芝浦工業大学 システム理工学部 電子情報システム学科 教授(学術)
渡辺 哲也	組織拡大担当	株式会社日立インフォメーションアカデミー L&D第一部 主管インストラクター
平石 謙治	監事	ビー・ティー・ジー・インタナショナル 代表
渡辺 善子	監事	株式会社日本政策金融公庫 社外取締役 JBCCホールディングス株式会社 社外取締役
神庭 弘年	監事/PMI リージョン9メンバー	神庭 PM 研究所 代表
木下 雅裕	顧問	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 取締役常務執行役員
杉村 宗泰	顧問	日本マイクロソフト 株式会社 エンタープライズサービス部門 SQA/PMO マネージャ
高橋 正憲	顧問	PM プロ 有限会社 代表取締役



スポンサー一覧

2019年12月31日現在

法人スポンサー(114社)

(五十音順)

アイアンドエルソフトウェア株式会社
アイシンク株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
アクシスインターナショナル株式会社
株式会社アジャイルウェア
アドソル日進株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社インテジテクノスフィア
株式会社インテック
株式会社エクサ
株式会社HS情報システムズ
MS&ADシステムズ株式会社
NCS&A株式会社
NDIソリューションズ株式会社
NECネクサソリューションズ株式会社
株式会社NSD
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ アイ
株式会社NTTデータ関西
株式会社NTTデータ・ニューソン
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
SBテクノロジー株式会社
SCSK株式会社
株式会社エル・ティー・エス
株式会社大塚商会
株式会社オーシャン・コンサルティング
株式会社オペラージュ
株式会社関電システムズ
キーウェアソリューションズ株式会社
キャノン株式会社
キャノンITソリューションズ株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コベルシステム株式会社
サイフォーマ株式会社
株式会社シグマクス
株式会社システムインテグレート
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
株式会社シアスコム
株式会社SHIFT
JBCC株式会社
JFEシステムズ株式会社
株式会社JSOL
株式会社JTB情報システム
情報技術開発株式会社
住友電工情報システム株式会社
セブンスカイズ株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
SOMPOシステムズ株式会社

大日本印刷株式会社
株式会社タリアセンコンサルティング
TAC株式会社
TIS株式会社
TDCソフト株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
株式会社トヨタシステムズ
株式会社東レシステムセンター
株式会社TRADECREATE
日揮グローバル株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本システムウェア株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー株式会社
日本情報通信株式会社
日本電気株式会社
日本電子計算株式会社
日本ユニカ・システムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本ユニシス株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
株式会社ネクストスケープ
株式会社ネットラーニング
株式会社野村総合研究所
パーソルラーニング株式会社
ビジネスエンジニアリング株式会社
株式会社日立アカデミー
株式会社日立社会情報サービス
株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
株式会社ビジネスコンサルタント
ビジネステクノロジー株式会社
富士電機株式会社
富士ゼロックス株式会社
プラネット株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱総研 DCS 株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
ヤンマー情報システムサービス株式会社
株式会社ラック
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社リコー
リコージャパン株式会社
株式会社リクルートテクノロジーズ
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー(49組織)

(五十音順)

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校建築学科大塚研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット(URA)
金沢工業大学
鹿児島大学産学官連携推進センター
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学 理工学部・管理工学科・飯島研究室
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
神戸女子大学 家政学部家政学科
国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター 産業技術大学院大学
サイバー大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
札幌学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
学校法人 中部大学 経営情報学部
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中京大学 情報センター
中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
中央大学 国際情報学部
筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 プロジェクトマネジメント研究室
公立大学法人 公立ほこだて未来大学
広島修道大学経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
福岡工業大学情報工学部システムマネジメント学科
北海道大学 大学院情報科学研究科
北海道情報大学
北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
山口大学大学院技術経営研究科
山口大学工学部知能情報工学科
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー(2組織)

滋賀県大津市 市民部
三重県桑名市